



風光明媚な景色の広がる瀬戸内海国立公園津田の松原・琴林公園。園内のパワースポットの一つ「願い橋・叶い橋」は、願いごとを心で唱えながら渡り、叶いますようにと念じながら引き返すと良いと言われています。

讃 樹 會

令和8年2月1日発行

CONTENTS

- 02 第19回定期総会開催のご案内
- 03 会長選挙及び理事選挙のお知らせ
- 04 会長立候補所信表明
- 06 同窓生教授就任挨拶
- 12 香川大学医学部長再任挨拶
- 13 香川大学医学部附属病院院長就任挨拶
- 15 新任教授就任挨拶
- 17 ニュースの窓
- 24 理事会議事録
- 25 国外留学助成金受賞の言葉
- 26 2025年度研究助成金／研究奨励金 受賞の言葉
- 29 特集 注目！学生サークル
- 36 学会開催報告
- 37 支部会・懇親会
- 50 医学部祭開催報告
- 55 編集後記／事務局からのお知らせ

発行 香川大学医学部医学科同窓会讃樹會
〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1
TEL/FAX 087-840-2291
E-mail sanjukai-dousou-m@kagawa-u.ac.jp
<https://dousoukai.site/sanjukai/>

発行人 星川 広史
編集人 谷 丈二
印刷所 株式会社



香川大学医学部医学科同窓会讃樹會

第19回定期総会開催のご案内

日 時 : 令和8年5月23日(土) 15時00分より

場 所 : 香川大学医学部 講義棟講義室101 ~LIVE配信あり~

本年は、2年に一度の総会の開催並びに会長の任期満了にともなう会長選挙を執り行います。香川大学医学部医学科同窓会として更なる展開、飛躍を目指し、たくさんの方のご意見をいただきたいと思っております。ご多忙中とは存じますが、会員の皆様お誘い合わせの上、多数ご出席いただきますようお願い申し上げます。

同封の『出欠確認書／委任状』用紙に会場出欠の有無と、やむを得ず欠席される正会員の方は必ず委任状をご記入いただき、4月30日(木)までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

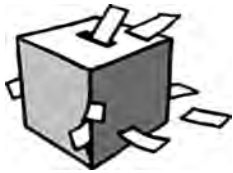
委任状を含め、正会員の十分の一以上の参加をもって総会が成立いたしますので、ご協力を宜しくお願い致します。尚、委任状の返信が無い場合は、議長に一任したものとみなしますのでご了承ください。

会場からのLIVE配信を視聴ご希望の場合も、『出欠確認書／委任状』を返送下さい。視聴方法は次ページを参照下さい。

また、特別会員、賛助会員、名誉会員、準会員の方には投票権並びに総会での議決権がございませんので、あらかじめご容赦下さい。

定期総会・記念講演会タイムスケジュール

14:30~15:00	会長選挙公開開票	講義棟講義室101
15:00~15:40	定期総会	講義棟講義室101
	議題	①令和6年度・令和7年度事業報告 ②令和7年度決算報告 ③令和8年度予算案 ④理事会からの審議項目
16:00~17:30	総会記念講演会	講義棟講義室101
	講演1 16:00~16:40	香川大学医学部消化器・神経内科学教授 小原英幹先生(平成9年卒・第12期生) 「消化器・神経内科学講座の組織構築と研究展開」
	講演2 16:50~17:30	香川大学副学長 香川大学医学部附属病院病院長 香川大学医学部泌尿器科学教授 杉元幹史先生(昭和63年卒・第3期生) 「香川医科大学第三期生、そして医学部附属病院 長として今思うこと、後輩たちに伝えたいこと」
18:30~20:30	懇親会	



令和8年度・9年度 会長選挙及び理事選挙のお知らせ

同窓会選挙規程 第2条 選挙管理委員会

- 1 理事会は常任委員会として選挙管理委員会を設置し、会長選挙、理事選挙、不信任決議、など同窓会運営にかかわるすべての投票行動を実施管理する。

会長選挙

同窓会報70号（令和7年9月号）にて告示致しました会長選挙につきまして、立候補者が星川広史氏のみとなりましたので信任投票を行います。立候補の所信表明及び推薦状は本誌P4、P5をご確認下さい。指定の投票用紙の信任・不信任のいずれかを○で囲み、署名の上、同窓会事務局まで郵送または直接お届けいただきますようお願い致します。

投票は締切厳守でお願いします。（4月30日午後5時必着）

選挙管理委員会が総会において投票結果をご報告いたします。（5月23日15：00～）

理事選挙

同様に会報にて告示致しました理事選挙につき、会員のみなさまから次年度理事候補を卒年単位でご推薦いただきました。上位に推薦されました会員が次年度の理事候補者となっていますので（同封の理事選挙用紙をご確認下さい）、信任投票をお願い致します。

理事選挙の信任投票につきましては、

信任の場合は記入せず、不信任の場合のみ「×」を記入下さい。

こちらも同様に、同窓会事務局まで郵送または直接お届けいただきますようお願い致します。（4月30日午後5時必着）

選挙管理委員会委員長 河井信行

《《 総会出欠返信並びに投票方法について 》》

- ① i 会長選挙投票用紙（ピンク）に署名し、信任・不信任のいずれかを○で囲む。
ii 会長選挙投票用紙を茶封筒に厳封する。
- ② 理事選挙投票用紙に署名し、不信任の場合だけ「×」を記入する。
- ③ 出欠確認書／委任状に必要事項を記入し、委任状に署名する。
（出席の場合は委任状の記入は不要です。）
- ④ ①～③を返信用封筒で返信下さい。

投票の返信締切

4月30日（木）午後5時

◆LIVE配信視聴方法について

1. Microsoft Teamsを利用します。アプリが無い場合はダウンロードして下さい。
ブラウザ上でも機能の一部制限はありますが利用はできます。
2. ブラウザ版アプリ版を問わず、Teamsの利用にはMicrosoftアカウントが必要です。
3. 総会・記念講演会LIVE配信のURLは下記の通りです。右のQRコード読み取りも可。
<https://teams.microsoft.com/meet/42640452566891?p=iaagkBQf18TmyiNHSo>
4. 当日の事務局への電話、メールでのお問合せはできませんのでご了承下さい。



讃樹會会長立候補所信表明

星川 広史 (H2年卒・5期生)

讃樹會会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、令和8年・9年度会長選挙に立候補させていただくにあたって所信を表明させていただきます。

2年前に初めて会長選挙に立候補させていただき、皆さまよりご承認をいただきました。きっかけはこの8年間、本学の地域枠学生のキャリア支援を担当し、香川県の地域医療に関して学生たちと共に学ぶ中で、高齢化・人口減少の日本にあって、これからの医療のあり方、形は大きく変化していかざるを得ない、そんな中で私たちの果たす役割はなにか、を考え始めたからです。急性期医療機関の集約と機能分化、回復期・地域包括ケアの強化、在宅・訪問診療の充実、といったいわゆる地域医療構想を具現化するにあたって、唯一人材を育成し、供給できる医学部・附属病院の果たす役割は益々大きくなると思われれます。一方で少子化に伴う教育機関の統廃合も今後加速していくことも予想されます。

学内に身を置く立場として、この2年間、これからの社会に求められる総合診療能力を有する医療人を育成する総合診療学講座に本学卒業生の市来智子先生を招聘し、地域枠学生・医師のキャリア支援、地域医療教育の充実を図るための寄附講座、地域医療総合医学講座を設立し、こちらにも本学卒業生の谷 丈二先生に着任していただきました。

2023年からは医学部の再開発事業も始まり、このよ

うな学内の大きな変革を支え、成功に導いていくためには、同窓の先生方のご支援無くして成り立たない、と考え、まずは今の香川大学医学部・附属病院の現状を知っていただき、これからの未来にご支援いただきたい、その思いで同窓会の運営にも携わらせていただきたく立候補いたしました。

2年間はあっという間です。なにができたのか、正直目に見えるような成果はお示しできていないのでは、との思いが強いです。医学部と協働して行ったホームカミングデー、岡山、関西、関東で開催された支部会の盛況、学生たちの参画など、同窓の皆さまが集う機会や情報共有を増やすことには少しは貢献できたかな、との思いはありますが、まだまだ不十分です。今後はそろそろリタイアの年齢になる、でもまだまだ十分に働ける、といったプラチナ世代の人材活用につながるIターン Uターンを同窓会のネットワークを活用して活性化する、今後必ず起こる南海トラフ地震などの災害時への対応を、医学部・附属病院そして学生たちと協働して、同窓会としてもできること、に取り組んでいきたいと思えます。

新棟に同窓会事務局が移転しました。同窓の先生方が気軽に立ち寄れる、敷居の低い運営を心掛けてまいります。小さなことをひとつずつ、着実に、気が付くと何かが変わった、を実感していただけるような同窓会活動を目指します。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



推薦状

令和8年度・9年度香川大学医学部医学科同窓会、讃樹會会長
選挙に H2年卒（5期生） 星川広史 氏を推薦します。

推薦人

西山 成 (H5年卒)

横平 双直 (H11年卒)

横井 英人 (H8年卒)

市来 智子 (H9年卒)

三木 京次 (H3年卒)



同窓生教授就任挨拶

教授就任にあたって

一冠微小循環障害（微小血管狭心症）診療の普及を目指して—

国際医療福祉大学医学部循環器内科学

教授 清岡 崇彦
(平成7年卒・10期生)



2024年4月1日付で、国際医療福祉大学医学部循環器内科学教授、および国際医療福祉大学熱海病院循環器内科部長を拝命いたしました清岡崇彦です。この度讃樹會にてご挨拶の機会をいただき、心より感謝申し上げます。

私は、香川県高松市で生まれ、高知県で育ちました。医師を志すきっかけになったのは、高校1年の時に祖母が急性心筋梗塞になりその後心房細動から心源性脳梗塞で半身不随になったことです。上品でやさしかった祖母の性格は変わり、自分で排泄もできず私のことも分からなくなり1年後、私の目の前で息をひきとりました。

その当時はPCIもアブレーション治療もありませんでしたので、祖母のような経過の患者さんも多かったことと思います。循環器内科を選んだのは、臨床実習で一番分かりやすく、楽しく感じたことからでしたが、深層心理には祖母の死が関係したのだと思います。今では私もどちらの治療にも携わるようになり、医学の進歩を実感しております。

1989年に香川医科大学に入学し、剣道部に所属し、尊敬できる先輩や同級生後輩たちと楽しく充実した学生時代を過ごしました。

特に最終学年の夏、大阪堺市で行われた西医体で団体優勝し、トロフィーで勝利の美酒を味わい、二日酔いのままみんなでハワイへ優勝旅行にいったことは忘れられない思い出です。ワイキキビーチでも竹刀を振り、大いに盛り上がりました。全医体に行くことを忘れていたのはお愛嬌です。大学生活はSGの素晴らしい友人にも恵まれ、今でもこのつながりは私の心の支えとなっています。

卒後は岡山大学循環器内科（大江透教授）に入局させていただき、その後PCI治療の第一人者の光藤和明先生のご指導のもと倉敷中央病院で多くの心臓カテーテルの経験を積ませていただきました。2001年より冠微小血管機能に関する研究を梶谷文彦先生や、留学先のChilian WM先生のもとで行わせていただきました。

冠微小血管を直接観察しながら、そのdynamicな動態を調べる研究は、まさに目から鱗で、冠微小循環障害の存在を確信いたしました。

留学先のニューオーリンズでは2005年8月29日1,800人以上の方が亡くなられたハリケーンカトリーナの被害に見舞われました。その年、3回目の避難勧告であまく考えていて、80%が水没した街に取り残されてしまいました。友人たちはヘリやボートで救出されましたが、私は海拔の高いところに住んでいたので幸い車が使えました。しかし道路は洪水で四方閉鎖され、情報はなく誰に聞いても街から出る方法はないといわれ、一度は残ることを決めました。最後に出会ったテキサスからの援助隊が水のない抜け道を教えてくれたのでなんとか脱出することができ、Memphisの友人宅に避難することができました。ラボのあるビルは、浸水し自家発電システムも壊れ、仕事の大打撃を受けました。その後、ラボのmemberは全米にそれぞれ散らばり研究を続けることになりました。私はアトランタ近郊のAugustaのMedical College of Georgiaにスペースをお借りして実験の再立ち上げを行うことになりました。ハリケーン直撃後、1ヶ月が経ち、ようやくラボに入る事が許され、機材をAugustaまで運びだすためにニューオーリンズに行きました。街へ近づくほど、屋根のない家々、壊れた看板、窓がほとんど破壊されたビル、山積みのゴミなどが多く見られました。ラボのあるビルは電気がまだ再開されておらず、暗闇、蒸し暑さの中、懐中電灯を片手に7階まで階段を往復するハードな作業になりました。部屋に入ったとたん、ものすごい刺激臭、悪臭で気分が悪くなりました。

作業を終え、夜フレンチクォーターに行ってみると、電気もなく暑い中、なじみのジャズクラブで希望に満ちた音楽が流れているのです。生命の根源に響く音楽にとても勇気づけられました。9か月後、ニューオーリンズに戻り、冠微小循環の基礎研究を継続しました。2007年帰国後、東海大学循環器内科（伊莉裕二教授）に移らせていただき、臨床現場でも、当時は原因不明

の胸痛の原因としてほとんど診断されることがなかった、微小血管狭心症や冠微小循環障害の存在を念頭に、診療を行いました。その中でPCI偏重の時代に微小血管狭心症にも関係する冠攣縮の大切さを実感し、冠攣縮性狭心症診療で高名な愛媛の末田章三先生にも多くの事をご教授いただきました。

2015年より下川宏明先生（国際医療福祉大学特任教授）が主催された微小血管狭心症に関する世界初の前向き共同研究にも日本からの4施設の1つとして参加させていただきました。PCIのみでは予後をよくすることができないという多くの研究結果も後押しし、現在国際医療福祉大学を中心に行われている冠微小循環障害のレジストリー研究では多くの施設が参加され、この領域が注目されてきていることを実感しております。

冠微小循環障害（微小血管狭心症）の診断法、治療

法が世界に普及され、苦しんでいる多くの患者さんがどこでも適切な診療を受けられるように、少しずつエビデンスが生まれてきておりますが、まだはじまったばかりです。

私は現在に至るまで、多くの方々に教えていただき、様々な局面で助けていただきました、この御恩に報いなくてはなりません。感謝の気持ちを忘れずに良い医療を行うこと、後進の先生方に継承していくことができれば一番に思っております。

最後になりますが、患者さんにとって病名が分からないということは想像以上に大きな不安です。その不安を和らげ適切な治療に導くために冠微小循環障害（微小血管狭心症）についての正確な知識と診断法を広く普及させていく仲間を求めています。いつでもご連絡いただければ幸いです。（kiyooka@ihwg.jp）

略歴

- 平成7年3月 香川医科大学医学部卒業
- 平成7年4月 岡山大学循環器内科学
- 平成9年4月 倉敷中央病院循環器内科
- 平成16年3月 岡山大学大学院医学研究科博士課程修了
- 平成16年10月 米国 ルイジアナ州立大学ヘルスサイエンスセンター、Research fellow
- 平成20年4月 東海大学医学部循環器内科学 講師、東海大学八王子病院循環器内科医長
- 平成23年4月 東海大学大磯病院循環器内科医長
- 平成27年4月 東海大学医学部循環器内科学 准教授
- 令和5年4月 池上総合病院ハートセンター長
- 令和6年4月 国際医療福祉大学循環器内科学 教授

教授就任にあたって

—香川で培った臨床の原点を礎に、がん医療の未来を切り拓く—

昭和医科大学医学部
内科学講座 腫瘍内科学部門

教授 堀池 篤

(平成9年卒・12期生)



讃樹會会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、昭和医科大学医学部内科学講座腫瘍内科学部門教授を拝命いたしました、平成9年卒の堀池 篤です。母校の同窓会報という貴重な誌面をお借りし、近況のご報告と今後の抱負を述べさせていただきます。

私は大学入学まで東京で過ごしましたが、香川県は両親の郷里であり、小学生時代の夏休みなどの長期休暇は、高松市内の祖父母の家で過ごすことが多く、幼少期の記憶の多くは香川の風景と共にあります。父は商社マンで海外を飛び回っておりましたが、祖父は香川県立中央病院で薬剤部長を務めており、医療は常に身近な存在でした。ある時、祖母に「いいところを見せてあげる」と連れられて訪れたのが、開学間もない香川医科大学でした。白亜のキャンパスへの憧れは、今も鮮明に覚えています。

香川医科大学に入学してからも、私にとって香川は「ふるさと」そのものであり、自然とこの地に馴染むことができました。大学時代は中学・高校から続いていた陸上部に所属し、充実した学生生活を送ることができました。卒業後、関東出身の同級生の多くは地元へ戻りましたが、私は母校の第一内科に入局いたしました。当時は現在のような研修制度はありませんでしたが、第一内科では内科医としての全身管理の基礎を徹底的に叩き込まれ、多くの先生方から薫陶を受けました。私の医師としての骨格が香川大学で形成されたことは、言うまでもありません。

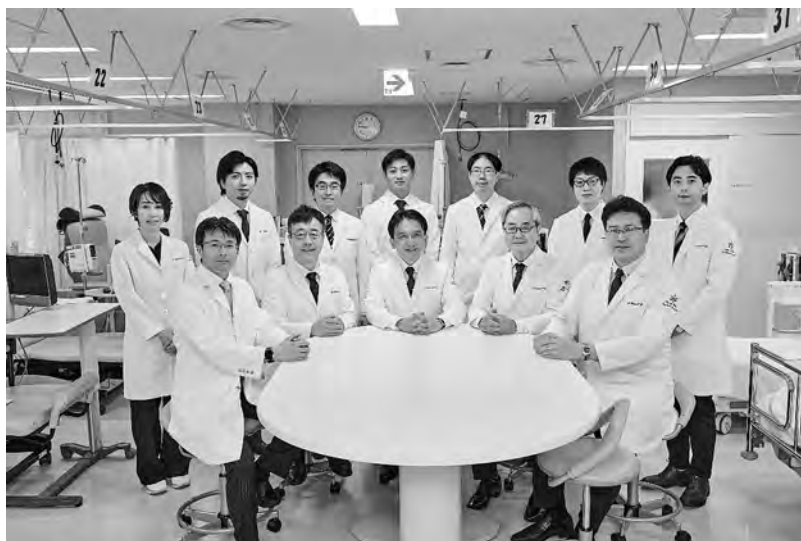
私にとって大きな転機は、大学に医員として戻り臨床に明け暮れた医師6年目に、国立がんセンターで研修の機会を頂いたことでした。先に研修されていた医局の先輩の勧めもあり、新薬の早期臨床開発に携わる治療開発のコースを選択しました。ここでは、従来の抗がん薬では効果が乏しかった患者さんにも劇的な効果を示す分子標的治療薬の開発が精力的に進められており、私は「新しい薬を正しく評価し、一日も早く患者さんへ届ける」ことを自らの使命として強く意識するようになりました。その後、私の希望もあり、がん専門病院での研鑽を続けさせて頂き、縁あって現在の職責を担うに至っております。

腫瘍内科は、私が学生時代にはなかった診療科ですが、がん薬物療法の発展とともに特に欧米では既にごん治療の中核を担う

診療科として確立しています。私自身、かつては肺がんを専門とする呼吸器内科医でしたが、6年前に昭和大学へ着任後は、腫瘍内科医として臓器の枠を越えて診療するようになり、視野が大きく広がりました。がんを「臓器」だけでなく「病態」として横断的に捉え、最適な治療を組み立てる重要性を日々実感しております。近年は治療法の進歩により、進行がんであっても克服や長期共存が可能となる方が確実に増えてきました。2人に1人ががんになる時代において、未来のがん医療を担う人材の育成は、私にとって最大の使命です。

教育においては、「最先端の医療を学び、患者さんへの寄り添いを実践できる」人材育成を軸に、①がん治療の未来を見据えた教育改革、②臨床現場重視の教育、③専門医の強みを生かした指導を進めてまいります。卒業教育は学際的で開かれた学びの場とし、当科の若手医師に限らず、他科・他大学から腫瘍内科を学びたい医師にも広く門戸を開きます。診療科や大学の垣根を越え、次世代の医療人材を育てていきたいと考えております。

私が所属する昭和医科大学は、医学部・薬学部・歯学部・保健医療学部の4学部を擁する医系総合大学です。昨年4月、創立時の原点に立ち返り「昭和医科大学」へと校名を変更いたしました。本学では、学生時代から学部間の交流が活発で、この「チーム医療」の土壌は、診療のみならず研究においても大きな強みと



昭和医科大学病院腫瘍センターにて教室員とともに

なっています。私自身、クリニカルクエスションに基づく前向き臨床研究を推進し、Kangaroo-Tail Study (K-TAIL) と名付けて医師主導治験や特定臨床研究を実施してきました。今後はこの基盤を最大限に活かし、本学を核とした日本有数の臨床研究拠点を構築したいと考えています。

昨年は、同期の12期生が2名、母校の教授に就任され、大いに刺激を受けました。先日、讃樹會関東支部会に参加し、関東で活躍中の同窓の先生方と親交を深

める機会も得ました。母校から離れた関東の地ではありますが、母校に負けぬよう、同窓の輪をさらに広げ、香川とのつながりを大切にしながら、関東の地でも盛り上げていきたいと思っております。

私の原点、源流は香川にほかなりません。母校から頂いたご恩に報いることができるよう、粉骨砕身努力してまいり所存です。最後になりましたが、讃樹會会員の皆様のご健勝と、母校のさらなるご発展を心より祈念申し上げます。

略歴

平成2年3月 東京学芸大学教育学部附属高等学校卒業
平成3年4月 香川医科大学医学部医学科入学
平成9年3月 香川医科大学医学部医学科卒業
平成9年5月 香川医科大学附属病院 第一内科 研修医
平成10年7月 香川県立中央病院 内科
平成12年7月 国立療養所高松病院 呼吸器科
平成13年7月 香川医科大学附属病院 第一内科 医員
平成14年6月 国立がんセンター中央病院 内科（治療開発）がん専門修練医
平成16年6月 財団法人 癌研究会附属病院 呼吸器内科 シニアレジデント
平成17年6月 財団法人 癌研究会有明病院 呼吸器内科 フェロー
平成18年4月 同病院 呼吸器内科 医員
平成24年4月 同病院 早期探索臨床試験推進室兼務
平成24年6月 同病院 呼吸器内科 医長
令和元年7月 昭和大学医学部 内科学講座 腫瘍内科学部門 准教授
令和7年4月 昭和医科大学医学部 内科学講座 腫瘍内科学部門 教授
昭和医科大学病院 腫瘍内科 診療科長、腫瘍センター長（現在に至る）

「教授就任にあたって」

—その時々興味を信じて歩んだ道—

国際医療福祉大学医学部循環器内科学

教授 谷本 耕司郎
(平成11年卒・14期生)



こんにちは。香川医科大学14期生の谷本耕司郎です。2025年4月より、国際医療福祉大学医学部循環器内科学の教授に就任いたしましたので、ご報告申し上げます。

大学入学時の入試面談で、「大学ではどのような研究を行いたいですか」と尋ねられました。当時SFに夢中だった私は、脳とコンピュータの融合、すなわち脳や神経から直接機械へ情報を出力する研究を行いたいと答えました。面接官であった脳外科教授の長尾省吾先生が、興味深そうに頷いてくださったことを、今でもよく覚えています。

大学入学後は比較的のんびりと学生生活を送っていましたが、ポリクリで同じ班だった津川二郎君が「小児外科や心臓血管外科はすごい」と熱心に勧めてくれた影響もあり、単純な私は「心臓血管外科は格好良さそうだ」と思うようになりました。5年生のポリクリ頃から心臓血管外科医を志すようになり、国立循環器病センターの学生向け夏季研修にも参加しました。卒業後は東京で外科研修を行い、その後に循環器病センターで研修することを考えていましたが、情報を集めるうちに、地方大学出身者が心臓外科で一人前の術者になる道の厳しさを実感し、循環器内科で生きていく決意をしました。

当時の香川医科大学第二内科（循環器・腎臓・脳血管）は、心エコーの大家である松尾裕英先生が主宰されており、大学院生として入局しました。大学院生といっても、日中は大学病院で通常の診療に従事し、2年目以降に心エコーの研究にも取り組むという日々でした。

大学院1年目の冬、水重克文先生から日本心臓病学会の教育セミナー受講を勧めいただき、大阪・千里で開催されたセミナーに参加しました。そこで、慶應

義塾大学医学部心臓先端治療学の三田村秀雄先生のご講演を拝聴し、不整脈に対する薬物治療・非薬物治療（カテーテルアブレーションや植込み型除細動器）の奥深さに強く惹かれ、不整脈を専門としたいと考えるようになりました。当時、大学病院ではカテーテルアブレーションが行われていなかったため、香川に戻ってからは、先輩の雪入一志先生とともに、県内で唯一アブレーション治療を行っていた香川県立白鳥病院へ、週1回見学に通いました。

大学院2年目には、大阪市立大学から河野雅和先生が教授として赴任され、面談の際に不整脈を専門としたい旨をお伝えしたところ、慶應義塾大学への国内留学を提案してくださいました。小川聡先生、三田村先生のご指導のもと、高月誠司先生、副島京子先生から直接薫陶を受け、不整脈診療の基礎から応用まで、徹底的に学ぶ機会を得ることができました。

その後、スタンフォード大学循環器内科不整脈部門への2年間の留学を経て、国立病院機構東京医療センターに赴任し、不整脈心血管センターの立ち上げに携わりました。そしてこのたび、不整脈治療におけるこれまでの取り組みを評価いただき、国際医療福祉大学成田病院循環器内科学教授として推薦いただくこととなりました。

振り返ってみると、大学入学から現在に至るまで、その時々自分が純粹に興味を持ったことに集中し続けることができたことが、今の自分を形作ってきたように思います。その過程で出会った多くのメンターの先生方、同僚、後輩の皆さまに、心より感謝申し上げます。

これまで多くの方々にご指導いただき、現在の自分があると考えています。今後は、自身のさらなる研鑽と向上を続けるとともに、大学における臨床・研究・

教育を通じて、次世代の循環器医、そして不整脈専門医の育成にも力を注いでいきたいと考えています。循環器内科や不整脈診療、国際医療福祉大学にご興味のある方は、どうぞ遠慮なくご連絡ください。

経歴

平成11年3月 香川医科大学医学部医学科 卒業
平成11年4月 香川医科大学大学院医学研究科 博士課程 入学
平成13年1月 慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科 留学
平成16年3月 香川医科大学大学院医学研究科 博士課程 修了
平成16年4月 慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科 専修医
平成18年4月 慶應義塾大学医学部循環器内科 特別研究助教
平成21年6月 スタンフォード大学医学部循環器内科 ポストドクトラルフェロー
平成23年7月 慶應義塾大学医学部循環器内科 特別研究助教
平成25年4月 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター循環器内科 医員
平成31年4月 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター循環器内科 医長
令和2年4月 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター循環器内科 科長
令和7年4月 国際医療福祉大学医学部循環器内科 教授

香川大学医学部長再任挨拶

香川大学医学部長再任のご挨拶

～次世代へ夢を託し、50年のその先へ～



香川大学医学部長 西山 成
(平成5年卒・8期生)

香川大学医学部長の西山 成でございます。香川大学医学部医学科同窓会・讃樹會の皆様におかれましては、平素より母校・香川大学医学部の教育・研究・診療活動に対し、格別のご理解と温かいご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。このたび、皆様のご信任とご厚情に支えられ、医学部長として再任をお認めいただき、引き続き2年間、その重責を担わせていただくこととなりました。讃樹會の皆様が全国各地、さらには世界の第一線でご活躍され、これまで積み重ねてこられた歴史が今の香川大学医学部を形づくっております。また、折に触れて母校を思い起こし、支えてくださっていただいております同窓の存在は、香川大学医学部にとって何ものにも代えがたい心の支柱となっており、ここに改めて深甚なる感謝と敬意を表する次第でございます。

さて、我々は旧香川医科大学として開学して以来、まもなく創設50周年という大きな節目を迎えます。この半世紀の歩みは決して平坦なものではなく、常に地域や世界と向き合い、人と向き合い、医療の本質を問い続けてきた卒業生の皆様お一人おひとりの努力と情熱の結晶であります。地域医療を支え、日本の医療を支え、さらには世界へと羽ばたいていった先輩方の足跡は、今も在学生の心を照らす確かな道標となっており、「自分もここから羽ばたきたい」という夢の原点となっております。私は、この50周年をこれまでの歴史に深い感謝を捧げる節目であると同時に、次の50年へ夢と志を力強く託す、新たな航海の出発点としたいと考えております。人口減少や医師偏在、医療の高度化と複雑化など、医学・医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えておりますが、このような時代だからこそ、香川大学医学部には地域に根ざしながら世界と協奏し、人々の人生そのものに寄り添える医療人を育てるといふ、かけがえのない使命があります。困難な時代にあっても、人を育て、知を育て、希望を育て続けること、それこそが大学の存在意義であり、未来の医療を切り拓く原動力であると私は確信しております。

その理念を具体的な姿として示す取り組みが、現在進めております医学部キャンパス再開発であり、これは単なる施設の更新や老朽化対策ではなく、学生や教職員が自由に夢を描き、世代や専門、職種を越えて語り合い、新しい学問や医療が自然に生まれてくる「未来への舞台」を築く挑戦であります。一方で、地方国立大学、とりわけ医学部を取り巻く財政状況は決して容易ではなく、その理想を現実のものとするためには、我々を応援して下さる同窓生の皆様のお力添えが不可欠であります。それに応えるべく私たちは、「香川大学医学部50周年記念基金」を創設するとともに、三木町のご協力を得て「ふるさと納税制度」を活用した新たな支援の仕組みを整えてまいりましたが、これまでに賜りました多くのご寄付は学生の教育環境整備や国際交流、次世代人材育成などに大切に活用させていただいております。皆様よりいただくご支援のお一つおひとつが、我々にとって「自分は支えられている」「期待されている」という実感となり、未来へ踏み出す勇氣と誇りにつながっておりますので、引き続き何卒宜しくお願い申し上げます。

以上、讃樹會の皆様は、これまでの香川大学医学部の歴史を築いてこられた存在であると同時に、これからの未来を共につくっていただく大切な仲間ではありますが、先輩たちの背中を見て夢を持つ学生たちが、やがて次の50年を支える医療人へと成長してまいります。このような世代を超えた連なりこそが、我々、香川大学医学部の何よりの財産であり、尽きることのない希望であります。今後とも、母校・香川大学医学部の挑戦と、次世代へ託す夢に対し、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

香川大学医学部附属病院病院長就任挨拶

病院長就任ご挨拶

「かだい病院に関わるすべての人をしあわせにしたい」



香川大学医学部附属病院 病院長 杉元 幹史
(昭和63年卒・3期生)

令和7年10月1日付で、香川大学医学部附属病院（かだい病院）の第12代病院長を拝命いたしました。これもひとえに讃樹會の皆様のご支援のおかげであり、深く感謝申し上げます。同窓の皆様へご報告申し上げますとともに、今後の決意を述べさせていただきます。

私は1982年（昭和57年）、香川医科大学第3期生として入学いたしました。当時のキャンパスには食堂と体育館しかなく、生協もコピー機もなく、近隣の農学部までコピーに通っていたことをよく覚えています。男子90名・女子10名という構成で、看護学科もありませんでした。今思えば不便なことも多かったものの、同期と励まし合いながら学び、語り合った日々は今も心に残っています。幼少期から続けていた剣道では、5年生時に西日本医学生体育大会で優勝できたことが大きな励みとなり、困難に立ち向かう精神的支柱にもなりました。

卒業後は泌尿器科に入局し、恩師や同門の先生方、同僚、患者さん、地域の方々との出会いや支えによって歩みを重ねてまいりました。この多くの学びとご縁の積み重ねが、今回の病院長就任へとつながったものと感じています。

——「自分の大切な人を、安心して任せられる病院に」

香川大学は開学以来、新設医大として厳しい環境からスタートし、香川県内では“後発”としての立場にありました。既存の“先発勢力”の壁は高く強固でしたが、開学から45年が経過した今、地域からの信頼は着実に蓄積され、「同じ土俵で勝負できる段階」に達しつつあると感じています。とはいえ、ここからが本番であり、真の勝負が始まります。

一方、地方大学病院をとりまく環境は、少子高齢化、医療人材の都市集中、診療報酬の抑制など、強いアゲインストの風に晒されています。だからこそ私たちは、

この風を正面から受け止め、「アゲインストにはアゲインストの戦略を」をもって対応しなければなりません。

私は病院運営にあたり、最先端医療の導入と並行して、「足元を固めること」を最重要視しています。安全性と標準化、継続的な教育、チーム医療の徹底を柱とし、「ここにかかってよかった」「ここで働いてよかった」と感じていただける病院をつくってまいります。そのための行動指針として

- ・スピード
 - ・決断力
 - ・公平性
- の3つを掲げています。

私が医師になった30年前とは比べものにならないほど情報量が増えています。立ち止まることなく処理スピードを上げなければ、すぐに取り残されてしまいます。そのためにも決断力が重要であると考えています。そして私が最も重視しているのは公平性です。不公平感ほど組織の士気を低下させるものはなく、各部署・個人の貢献を正当に評価し、信頼される組織運営を徹底する所存です。

——ぶれない3つのコンセプト

- 1) かだい病院にかかわるすべての人をしあわせにしたい
- 2) 職員ファースト
- 3) Go for it!

ここでいう“すべての人”とは、患者さんやご家族はもちろん、職員、学生、卒業生、地域の医療機関、協力企業など、病院に関わる全ての存在を含みます。また、患者さんのQOL向上のためには、まず職員が幸福を感じられる環境が不可欠であると考えています。

そして「Go for it!（やってみなはれ）」これはサントリの創業者である鳥井信治郎氏の言葉です。「失

敗を恐れず、挑戦する人を支えること」がサントリーの風土を形成したと聞いています。私もこの精神を掲げ、若い人材の挑戦を後押しし、その芽を摘まない組織風土を育てることこそ、大学病院の使命であると考えています。失敗を恐れず一歩を踏み出す人に寄り添い、挑戦を支える文化を大切にしていきたいと思います。

このような環境を整備することこそ、私の仕事だと心得ています。

——「人生の扉は他人が開く」

私自身、「こうなりたい」と明確なゴールを掲げて歩んできたというよりは、目の前の仕事に真摯に取り組むなかで、周囲の方々が人生の扉を開いてくださったように思います。そのご恩に報いるためにも、「へこたれないタフな病院」をつくり、香川の医療を守り抜くことが私の使命であると強く感じています。

今後とも、同窓の皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。どうか、私たちの挑戦を温かく見守っていただければ幸甚に存じます。



新任教授就任挨拶

教授就任にあたって

～香川の地から発信する新しい公衆衛生学のかたち～



香川大学医学部
人間社会環境医学講座 公衆衛生学
教授 はるさと 春里 あきひと 暁人

2025年9月1日付で、香川大学医学部 人間社会環境医学講座 公衆衛生学の教授を拝命いたしました春里暁人と申します。この誌面をお借りして、日頃よりご支援を賜っております讃樹會の先生方に心より御礼申し上げます。

私は大阪市で生まれ、実家は代々大阪府庁に勤めておりました。当教室の前身である人間環境医学講座 衛生・公衆衛生学教室初代教授の中嶋泰知先生が、私が幼少時に毎日通っていた大阪城公園への通り道にある大阪府立公衆衛生研究所のご出身であることを知り、深いご縁を感じております。

私は2002年に京都府立医科大学を卒業後、主に消化器内科で臨床に従事いたしました。その後、腸管免疫、環境要因と免疫応答の関わりをテーマに基礎研究の道に進み、理化学研究所、米国ジョージア州立大学でのポストドク経験を経て、2017年に帰国後は同大学附属北部医療センターにて医師過疎地域での診療と医学教育に携わる機会を得ました。

2021年からは京都府庁にて公衆衛生医師として新型コロナウイルス感染症の対応に従事しました。災害派遣医療チーム（DMAT）や京都大学・京都府立医科大学附属病院をはじめとする府内の医療機関と協力し、入院医療体制の維持と医療調整に取り組むとともに、医師確保、働き方改革、がん教育推進など多岐にわたる施策に関わる機会を得ました。

2024年に赴任した名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学（旧衛生学）では、環境と健康をつなぐ研究を進めてまいりました。低周波騒音の健康影響とその予防法の開発、環境中マイクロ・ナノプラスチックの免疫影響、食事由来元素と生活習慣病との関連を検証する疫学研究など多面的なアプローチで取り組んでまいりました。また、社会医学系5教室が力を合わせ社会医学実習や国際保健大学院教育を担われる姿に触れ、教育・運営の面でも多くを学ばせていただきました。

これまでの道のりを振り返ると、「病気を診て治すこと」から出発し、「社会と環境を俯瞰しヒトの健康

を衛（まも）る」方向へと歩みを進めてきたように思います。臨床・研究・行政という異なる立場を経験する中で、特に健康危機の現場では科学的知見と同時に、人と人の信頼関係がいかに重要かを痛感しました。こうした経験を、これからのAI時代における人材育成と地域連携に生かしてまいります。

香川県は、医療・保健分野の専門職、行政、教育機関が互いに顔の見える関係を築きやすい規模を持ち、地域公衆衛生活動を展開するうえで理想的な環境にあります。公衆衛生学では、教育・地域貢献・研究の三つを柱に据え、大学と地域社会をつなぐハブとしての役割を果たしてまいります。

教育面では、実践型の学習を充実させ、地域の皆様との協働を通じて地域の公衆衛生を担う人材を育成します。さらに、次世代の公衆衛生医師を育成するため、行政との連携を深化させつつ、若手の先生方が国内外で活躍の場を広げられるようにキャリアモデルを可視化し、その形成を支える枠組みづくりに尽力してまいります。

地域貢献の面では、日本が直面する医療提供体制の再構築という課題を踏まえ、地域の実情に即した持続可能な医療体制づくりに貢献してまいりたいと考えております。あわせて、健康づくりや疾病予防の活動を通じて県民の健康向上を図るとともに、インド太平洋やアフリカ諸国における国際保健活動にも貢献してまいります。

研究面では、感染症や自然災害などの健康危機対応から、生活習慣病の予防、環境要因の健康影響、国際保健、メンタルヘルスマで幅広く取り組んでまいり所存ですが、これらは「健康を支える社会の仕組みをどう築くか」という一点につながります。

本教室は、初代・中嶋泰知教授、そして二代目・實成文彦教授のもとで環境汚染物質の健康影響に関する環境衛生研究が進み全国的にも高い評価を得ました。さらに第三代・平尾智広教授の時代には、行政連携の強化や国際協力の分野が大きく発展しました。私はこの伝統を受け継ぎ、平尾教授が推進された流れをさら

に発展させるとともに、中嶋・實成両教授の原点である「環境と健康」の視点に立ち返り、実験的・疫学的アプローチを含めた新しい公衆衛生学研究のかたちを発信できるように取り組んでまいります。

公衆衛生学とは、誰か一人の命を救うのではなく「社会の健康」を守る学問です。学生や若手医師の皆さんには、目の前の患者さんを思う心を大切にしながら、その先にある地域や社会の構造を見つめてほしい

と願っています。人の痛みに寄り添い、科学的根拠をもって社会を動かして変えていける医師・研究者が増えることを心から期待しております。

香川大学医学部公衆衛生学がこれからも地域とともに歩み、世代を超えて誇れる教室であり続けられるよう、微力ながら全力を尽くす所存です。讃樹會の皆様におかれましては、今後とも温かいご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

- 平成14年3月 京都府立医科大学医学部医学科 卒業
- 平成14年5月 京都府立医科大学附属病院 内科研修医
- 平成18年4月 朝日大学附属病院 助教
- 平成23年3月 京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程修了（医学博士）
- 平成24年8月 理化学研究所統合生命医科学研究センター 特別研究員
- 平成26年4月 米国ジョージア州立大学 Institute for Biomedical Sciences 博士研究員
- 平成29年4月 京都府立医科大学附属北部医療センター 助教
- 令和3年4月 京都府健康福祉部 医務主幹（京都府立医科大学 助教併任）
- 令和5年4月 京都府健康福祉部 医務主幹（京都府立医科大学 学内講師併任）
- 令和6年5月 名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学 特任講師
- 令和7年9月 香川大学医学部人間社会環境医学講座公衆衛生学 教授

ニュースの窓

組織・人事

2025年10月1日付のご就任をお知らせします。

【医学部執行部】

(敬称略)

役職	氏名	所属
医学部長	西山 成 (8期生)	薬理学教授
副医学部長 (医学科教育担当)	横平政直 (14期生)	医学教育学教授
副医学部長 (看護学科教育研究担当)	松本啓子	看護学科長 在宅看護学教授
副医学部長 (臨床心理学科教育研究担当)	竹森元彦	臨床心理学科長 心理療法実践学教授
副医学部長 (大学院教育・研究担当)	隈元謙介	ゲノム医科学・遺伝医学教授
副医学部長 (入学試験担当)	大日輝記	皮膚科学教授
副医学部長 (再開発・広報担当)	岩部美紀 (院H16年)	生化学教授
副医学部長 (国際・社会連携担当)	門田球一 (18期生)	分子腫瘍病理学教授
副医学部長 (地域医療・災害担当)	星川広史 (5期生)	医学科長 耳鼻咽喉科学教授
副医学部長 (情報・評価担当)	横井英人 (11期生)	医療情報学教授
副医学部長 (総務担当)	前川豊弘	事務部長

【医学部附属病院執行部】

役職	氏名	所属
病院長	杉元幹史 (3期生)	泌尿器科学教授
副病院長 (診療・医療安全担当)	岡野圭一 (7期生)	消化器外科学教授
副病院長 (研究・開発担当)	石川正和	整形外科科学教授
副病院長 (経営・評価担当)	堀井泰浩	心臓血管外科学教授
副病院長 (教育・地域連携・災害対策担当)	萩野祐一	麻酔科学教授
副病院長 (広報・情報発信担当)	三宅 実 (院H3年)	歯科口腔外科学教授
副病院長 (医療の質管理担当)	阿部 慈	看護部長
副病院長 (総務担当)	前川豊弘	事務部長

医学科ホームカミングデイ2025

令和7年10月12日



会場風景

「年に一度、香川大学医学部に帰る日」ホームカミングデイ2025が昨年に引き続き開催されました。賑やかな医学部祭最終日の午後2時～4時に講義実習棟講義室201教室が会場となり、香川は勿論、関西、東北、北海道など遠方からもはるばる卒業生の皆さんが参加され、中には在校生のご家族の姿もありました。



西山成医学部長

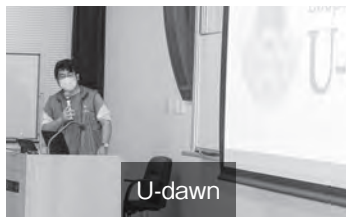
西山成医学部長による開会の挨拶に続き、総合診療学市来智子教授(12期生)の「19番目の専門医 総合診療医を育て香川の未来を守る」と題したご講演が行われました。その後、後輩である医学部学生、萩田洋平さん(3年)による「女木島救護所活動報告」では、自分たちができる地域貢献の医療活動に全力で取り組む活動内容が紹介されました。



講演中の市来智子教授

讃樹会の支部活動紹介では、関東支部会、関西支部会、中部支部会、岡山讃樹会の支部会・懇親会の開催状況が紹介され、この折に、北海道美幌町の病院にご勤務の卒業生の先生から、同じ職場に偶然香川医大の卒業生が3名も勤務していることが紹介され、是非オホーツク支部の開設をと宣伝され、とても心温まるお話を伺えました。

今昔サークル活動紹介は、現在、熱心に活動を展開している学生サークル「ちいらば」、「IFMSAK」、「U-dawn」について、学生自身による活動紹介が行われ、昔のサークルとしては、かつての馬術部の写真や、モーターバイク部もあったことなど紹介されました。※



U-dawn



女木島救護所プロジェクト

最後に、この日、最も人気を博した「母校愛を試す! 香大医クイズ大会」が行われ、次々に繰り出される香川医科大学・香川大学医学部の基礎問、珍問、難問?に、各自のスマホで回答していくという楽しい時間となりました。母校愛上位3名にはプレゼントあり、記念撮影ありで、最後まで盛り上がったクイズ大会でした。



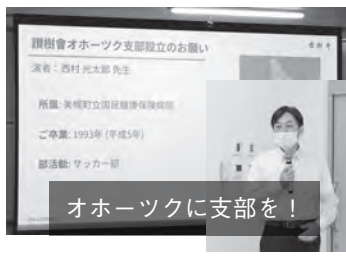
ちいらば



IFMSAK



締めには星川広史同窓会長から閉会の挨拶がありました。今年のホームカミングデイは、学生さんによるアイデア満載の企画で構成され、母校を訪れた卒業生同士、また現役学生さんとの交流の大変良い機会となりました。夜には古馬場のいけす道楽で懇親会が行われました。(※現在の学生サークルについては、今号の特集でも取り上げていますので是非お読みください。)



オホーツクに支部を!



星川同窓会長



クイズ大会



2次会



2025年度の医師臨床研修マッチング結果について

令和7年10月23日

卒後臨床研修センター

センター長 安田 真之 (平成9年卒・12期生)

令和8年度から医師になる医学科生らが臨床研修病院を選ぶ「2025年度マッチング結果」が、10月23日に公表されました。

本院のマッチ者数は、MANDEGANプログラム(20名)および小児科プログラム(1名)、あわせて計21名でした。

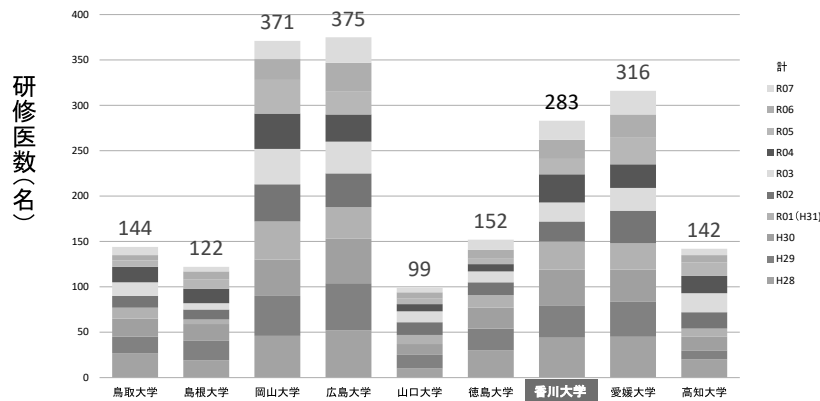
本院への想い・期待を抱いてくれた皆さんが、来春より本院で研修開始予定であることを大変嬉しく思います。

令和2年度から、卒後臨床研修制度が大幅に変更となりました。必修診療科での研修期間が増え、新たに外来診療・チーム医療の実践など必修項目も設定されています。また、医師だけでなく看護師等の多職種による研修医評価も必要となりました。院内スタッフの皆様にも、研修医指導へのご理解とご協力をお願いしております。

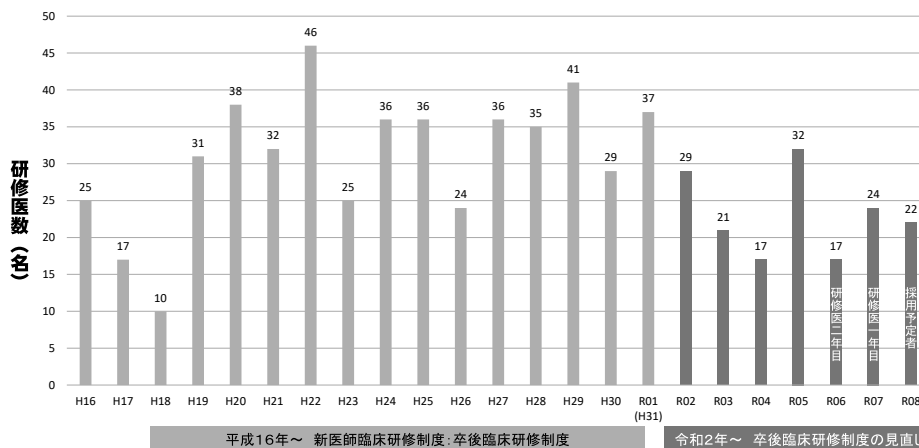
本年度のマッチング結果は、地方国立大学病院では、研修医確保が大変厳しい状況に陥っており、地域医療を担う医師教育、育成に多大な影響を及ぼすことが危惧されております。今後、多くの医学生からキャリアアップのファーストステップとして本院が選択される為に、医療の社会的ニーズの変化に対応した研修を提供することが、さらに重要となると考えています。

医学部教育センター、臨床教育研修支援部が一気通貫体制で医師養成に望むだけでなく、地域全体のムーブメントとして皆様にも研修医教育に関わって頂き、研修医が医師としてのキャリアアップに夢を持てる大学病院でありつづけることが大切と考えます。讃樹會会員の皆様におかれましても、引き続き研修医育成にお力添えの程よろしくごお願い申し上げます。

中国四国9国立大学病院 大学別
医師臨床研修マッチング者数の累計(過去10年間)

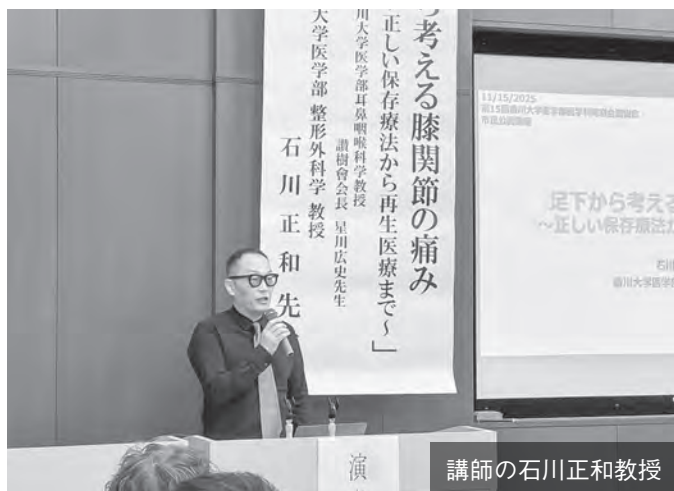


本院の医師研修医数



第15回讃樹會市民公開講座 開催報告 令和7年11月15日(土) 16:00~17:00

讃樹會副会長 星川 洋一 (平成7年卒・10期生)



講師の石川正和教授

恒例となった讃樹會市民公開講座が、11月15日土曜日、サンポート高松で開催されました。この講座は、県民の関心の高い健康課題や最新の医療情報について、正しい知識を広く周知啓発することを目的に、香川大学の協力のもと毎年開催しているもので、今年で15回目の開催となります。好天にも恵まれ、定員100名の会場が一杯になる盛況ぶりでした。

開会に先立ち、筆者から、新設だった香川大学医学部も創立47年を迎え、県内外に多くの人材を輩出していること、同窓会では、地元への社会貢献の一つとして、大学の先生方に講師をお願いして市民公開講座を開催しており、今年はみなさんの関心の高い膝関節について取り上げた旨、説明いたしました。

引き続き、星川広史会長（5期生）が座長となり、講師である香川大学医学部整形外科学講座教授石川正和先生のご略歴等を紹介し、早速「足下から考える膝関節の痛み～正しい保存療法から再生医療まで～」と題した講演となりました。

講演では、先生が膝関節を専門とする整形外科医を目指したきっかけや経緯に始まり、膝関節の仕組み、変形性膝関節症の原因、症状から診断、治療まで、体系的にお話しいただきました。香川大学整形外科学教室の歴史とともに、特殊ブロープによる歩行時のリアルタイムでの半月板エコー検査や全国トップクラスの症例を誇る単顆型人工膝関節置換術といった香川大学の強み、また、企業と共同開発したインソールによる保存療法や自家培養細胞による関節軟骨の再生医療など、数々の新たな試みについてもご紹介いただき、地元香川大学で、世界最先端の治療・研究が行われていることで、みなさん大変心強く感じられたことと思います。最後に、医学者ジョナス・ソークの「希望は夢、想像力、そして夢を現実にしようとする者の勇気の中にある」ということばを引用され、半月板を治すという夢に向かってこれからもチャレンジを続け、同じマインドを持つ後進の育成にも注力したいと述べられ、私自身、大変感銘を受けるとともに身の引き締まる思いでした。専門的な内容についても、膝に関する川柳など織り交ぜながら、大変わかりやすくお話しいただくとともに、先生の膝治療・研究に掛ける熱い思いが伝わる素晴らしい講演で、あっという間の1時間でした。その後、会場からのご自分の膝の治療やリハビリなどについての質問にも、丁寧にお答えいただき、参加者皆さんにとって大変有意義な講演会となりました。

最後に、濱本龍七郎名誉会長（1期生）から、講師と参加者へのお礼、また香川大学医学部の卒業生も4千人近くとなり香川の医療を支えていること、今後も大学と連携し、このような講演会を続けていく旨挨拶し、盛会の内に終了しました。



座長
星川広史会長



開会の挨拶
星川洋一副会長



閉会の挨拶
濱本龍七郎名誉会長



受付風景



満員の市民公開講座会場 熱心に聴講するみなさん



会場から見える瀬戸内海



学生スタッフと

働く世代向け がん予防イベントを開催**令和7年6月8日**

高松市保健所 藤川 愛 (平成13年卒・16期生)

令和7年6月8日(日)、丸亀町レッツホールにて、働く世代を対象とした「がん予防イベント」を開催しました。主催は香川県総合健診協会、共催は香川県・高松市です。司会進行は吉本興業の香川住みます芸人・梶剛さん、岡山住みます芸人・江西あきよしさんにご担当いただき、笑いを交えつつ終始和やかな雰囲気で行いました。

今回は幅広い周知啓発を目的に、讃樹會を通じて募集した香川大学医学部の医学生ボランティア10名にもご協力いただきました。香川県がん征圧イメージキャラクター「ソウキくん」の着ぐるみで来場者をお迎えして、ドーム広場での啓発グッズ配布、受付対応、さらには野菜摂取量を15秒で測定できるベジメータ®(光を使った皮膚のカロテノイド量の測定)の介助など、積極的にイベントを支えました。

講師は、香川大学医学部 臨床遺伝ゲノム診療科教授の隈元謙介先生、健康科学教授の塩田敦子先生、そしてがん当事者であり日本骨髄バンク語り部の後藤千栄様の3名をお迎えしました。特に隈元先生からは、令和7年3月に香川大学医学部に新設された「香大がんリスク遺伝子パネル35」を含む最新のがん予防研究について紹介があり、参加者から多くの質問が寄せられるなど、大変盛況となりました。当日の様子は、西山医学部長によるブログ「生まれ変わる香大医ととみに」(2025年6月10日付)にも掲載されています。

👉 <https://nishiyama-akira.hatenablog.jp/entry/2025/06/10/084151>

讃樹會の皆様には、今年度も変わらぬご支援を賜り、心より御礼申し上げます。今後とも本事業の発展を温かく見守っていただけますよう、お願い申し上げます。



香川大学医学部小児科学講座同門会10周年開催報告 令和8年1月10日**香川大学医学部小児科学講座同門会設立10周年を迎えて**

香川大学医学部小児科 森本 絢（平成23年卒・26期生）

香川大学医学部小児科に日下教授が2014年に就任されてから10年が経過し、同年に設立された同門会も節目となる10周年を迎えました。毎年開催されている同門会総会では、恒例として2名の先生方にご講演をお願いしておりますが、本年は川本昌平先生より兵庫県立こども病院小児集中治療センターへの国内留学についてのご報告、岩瀬孝志先生より香川小児先進医療協議会の活動についてご講演を賜りました。いずれの講演も、日々の臨床や地域医療の発展に直結する内容であり、参加者一同、深い学びを得る貴重な機会となりました。懇親会では、同門会設立10周年を記念し、現在県外で診療に従事されている5名の先生方から寄せられた動画メッセージや祝辞をスライドとして紹介し

ました。久しぶりに拝見する懐かしいお顔や温かい言葉に、会場は和やかな雰囲気になりました。さらに、同門会長の尾崎貴視先生をはじめ、県内外からご出席いただいた先生方には、この10年を振り返って感じることを自由に語っていただきました。話題はやがて10年の枠を超え、香川医科大学開院当初の思い出にまで及び、会場は大いに盛り上がりました。

本総会を通じて、小児科医として子ども達のために何ができるのかを改めて考え、最善の医療を提供するために今後も研鑽を続けていくという思いを共有することができました。同門のつながりを大切にしながら、次の10年に向けて歩みを進めていきたいと感じた一日でした。



理事会議事録

令和7年度第3回理事会 令和7年12月22日(月) 19:30~20:00 WEB開催

当日参加18名及び委任状26名による計44名の参加となり、全理事58名の過半数(29名)以上により理事会が成立した。

1. 令和7年度(2025年度)第2回国外留学助成金審査・決定

西内学術局長から、阿部陽平先生(平成24年卒)と中嶋晃一朗先生(平成25年卒)の2件の申請があり、1次審査上、全て基準を満たしていることが説明された。これを受けて理事会による2次審査が行われ、一人当たり満額250,000円の交付が決定した。

2. 第19回定期総会の日程及び記念講演講師の決定

日程は5月23日(土)15:00、会場は医学部講義棟1階101教室に決定した。記念講演会の講師は本年10月に医学部附属病院病院長に就任された杉元幹史先生(昭和63年卒)と、昨年母校教授に就任された小原英幹先生(平成9年卒)のお二人にお願いするという執行部案に理事会の承認があり決定した。形式は可能であればハイブリッドを検討することとなった。

3. 次年度会長選挙及び理事選挙のスケジュール等の確認

河井選挙管理委員長に代わり星川会長から、次年度会長選挙及び理事選挙のスケジュールが説明され、承認された。

4. 学生支援(競争的資金)追加審査

7月15日の締切までに申請がなかったため予算があることと、学生支援という本事業の目的から、女木島救護所学生プロジェクトと、PQJ2026(医学・生理学クイズ日本大会2026)運営委員会の2件の追加申請が承認された。

5. 会員情報の提供について

星川会長から、本年、会員から会員情報提供の依頼があったことが報告され、今後、提供する際の対応が確認された。

会員の個人情報の提供・利用は、「讚樹會会員の個人情報の取扱いに関する基本方針」に基づき、使用目的(ア)~(キ)の達成に必要な範囲においてのみ、被照会者本人から利用の同意が得られている個人情報を提供する。尚、会員情報は原則的に項目毎に本人の公開・非公開の希望を基に登録されている。(ア)~(キ)の使用目的に合致する場合は提供することができる。総会、支部会、同期会などの開催にあたっては提供が可能であることが確認された。ただし、利用目的が「(キ)その他、讚樹會会員に関する業務」に該当するであろう場合については、理事会やメール審議等に諮り、慎重な対応のもとで情報提供の承認を得ることとなる。以上について理事会の承認があった。

6. 研究助成金/研究奨励金の評価方法について

西内学術局長から、研究助成金/研究奨励金の評価について、極端な査読に際してのフィードバックや、評価の仕組みの見直しが必要であると会員から指摘があったことが報告された。この件に対して、「従来、一つの命題に対し5人から評価を受け平均値でスコア

化して順位をつけている。今回、指摘を受けた後に、最低点をカットしたり中央値にするなど数パターンのシミュレーションを行ったが1位の順位は変わらなかった。査読者のバイアスが出来るだけ最小限になるような仕組みの検討をしていく必要があるだろうと考えている。ひとまず、査読者の選定、採点方式、採点の理由のフィードバックに関して具体的なたたき台を提案事項としてまとめ、次回以降、見直しを行っていきたい。」と述べた。また、星川会長から、評価いただく先生方の負担が過度にならない形の評価方法を次回に提案したいということと、今回初めて執行部会・理事会に学生部会の学生さんが参加し、執行部会でこの件に関して意見を述べたことを伝えた。次回、検討することについて理事会として賛同があった。

7. 卒業生のリクルート支援(Uターン・iターン)について

星川会長から提案があった。「卒業生も1期生あたりは勤務医であればそろそろ定年を迎える年齢であり、昨今は地域医療も医師の偏在が問題となっている。若い先生方だけではなく、これからリタイアしていく先生方でお元気な方で県外におられる方が香川に帰ってきて地域医療に貢献して頂く、そういう取り組みがあってもいいのではないかと、ということで同窓会でマッチングの仕組みを作ってみたい。同窓の気軽さもあり、気兼ねなく相談いただきたい。事務局を通してまずは私の方でご要望をお聞きしながら、希望の職場を探していきたいと思う。これに関して、西山医学部長から、愛媛県や宮崎県の事例で県や医師会と同窓会が強力にタイアップしながら医師確保をしているという意見を頂いたので、状況をよく調べて、できれば県や医師会とも協力しながら幅広く医師の確保に寄与できればと考えている。併せて県庁の星川先生から、医師の斡旋を業務とする際は無料でも労働局に届け出をし手続きが必要であるという意見があった。そこもよく調べて問題が無い形に準備ができれば、進めていきたいと思う。」

これに対し、大西理事長から、同窓のUターン、iターンに際して、同窓会にも窓口があったら強力なツールであると思うと意見があった。理事の賛同があり、承認された。

8. 香川県最低賃金改正に伴う事務局事務員の時給について

安田事務局長から、「本年10月18日付で、香川県最低賃金が時給1036円と決定したことを受け、これまで事務局事務員の時給が1000円であったので、1040円にしたい。また、ルールに則って10月18日に遡って不足分を精算する。更に、就業時間や年次有給休暇などについても法規に従い、大学の就業規則に準じて、パートタイマーの就業という形で定めたい。」との提案があり、理事会の賛同を得て承認された。

国外留学助成金 受賞の言葉

令和7年度第2回国外留学助成金

阿部 陽平 (平成24年卒) 香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科

留学先機関：Emory University
The Wallace H. Coulter Department of Biomedical Engineering
留学期間：2026年4月～2027年3月
研究課題：移植腎病理デジタル画像のAI解析による炎症・線維化の
定量化と長期生着予測



【謝辞】

この度は国外留学助成金にご採択賜り、讃樹會の皆様にご心より御礼申し上げます。私は腎移植医療および膀胱癌を専門とし、2026年4月よりEmory University生物医学工学部門へ留学いたします。疾患の診断・予後・治療計画の精度向上を目的とした人工知能ツール開発の先駆的研究で著名なAnant Madabhushi教授の下で、病理標本デジタル画像をAIで解析し、拒絶反応や再発などの予後を高精度に予測する研究に従事いたします。現地で研究チームと密に議論し解析方針を迅速に共有することで、移植腎の炎症細胞浸潤の微細な経時変化を定量化し、不要な中期生検の回避や患者負担・医療コストの軽減を目指します。さらに膀胱癌でも多機関データを用いた汎用性の高いモデル構築に挑戦し、得られた知見を当大学へ還元できるよう精進いたします。末筆ながら本助成のご推薦を頂きました香川大学医学部附属病院、泌尿器・副腎・腎移植外科の杉元教授、ならびにご支援下さった皆様に深謝申し上げます。

中嶋 晃一郎 (平成25年卒) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 陽子線治療科

留学先機関：Danish Centre for Particle Therapy, Aarhus University
留学期間：2026年7月～2028年6月
研究課題：陽子線超高線量率（FLASH）照射の臨床実装に向けた
生物学的影響評価とパラメータ開発



【謝辞】

この度は国外留学助成金にご採択いただき、讃樹會の皆様にご心より御礼申し上げます。私はこれまで名古屋市立大学において、陽子線治療という放射線治療の一つのモダリティについて、臨床と基礎の両側面から研究を行い、ショウジョウバエを用いた陽子線照射の生物学的効果に関する研究テーマで学位を取得しました。

2026年7月より留学させていただくAarhus Universityは、ヨーロッパ有数の放射線生物学研究拠点の一つであり、現在は陽子線超高線量率（FLASH）照射と呼ばれる最新の照射法に関する研究が精力的に進められています。国内では得難い研究環境の下で研鑽を積み、この分野の発展に貢献できるよう研究に尽力してまいります。末筆ながら、この場をお借りして、本助成のご推薦を賜りました香川大学医学部薬理学講座の西山成教授、愛知医科大学解剖学講座の内藤宗和教授、ならびに讃樹會の皆様へ、重ねて厚く御礼申し上げます。

2025年度研究助成金/研究奨励金 受賞の言葉

研究助成金受賞のことば



香川大学医学部 炎症病理学
宮井 由美 (平成17年卒・20期生)

この度、香川大学医学部同窓会讃樹會より令和7年度研究助成金を賜りましたこと、大変光栄に存じます。讃樹會会員の先生方、並びにご審査いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

私は平成17年に香川大学医学部を卒業後、本学附属病院病理診断科に入局し、病院における病理診断業務に従事しながら研鑽を積んでまいりました。その後、本学医学部炎症病理学に異動し、病理診断の実務で培った経験を研究と教育に活かす道を歩んでおります。

本研究テーマである「CaMKK β に着目した小葉癌の進展に関わる分子メカニズムの解明」に至った背景には二つの経験の存在があります。一つは、私は医学部学生在籍時に生体情報分子学講座（当時）に通い、カルシウムカルモデュリン依存性キナーゼであるCaMKをテーマに本格的に研究に取り組む機会をいただきました。私はそこで得た経験を通じて生命現象を分子レベルで探究することの面白さを実感するとともに、研究者としての基盤を形成いたしました。もう一つは、病理医として病理診断に携わる中で、乳癌の亜型である小葉癌の進展様式が他の癌と異なる点、また小葉癌は異型が弱いという特徴から診断の難しさを伴うことを強く実感し、小葉癌に対する疑問や課題意識

を抱いていました。小葉癌はE-cadherinの発現欠失が特徴で、細胞接着の異常をもたらすことは広く知られています。しかし、小葉癌に特徴的な浸潤や転移様式は、E-cadherinの欠失だけでは十分に説明できない点が残されています。私は乳癌の研究を病理学の視点から進める中で小葉癌に対する疑問点や課題を解決する鍵として、CaMKの一つであるCaMKK β の関与に着目するに至りました。CaMKK β はシグナル伝達における重要な調節因子であり、近年では様々な癌に発現するとの報告があり、乳癌においてもその発現が確認されています。小葉癌におけるCaMKK β の役割を解析することにより浸潤や転移のメカニズムを明らかにし、小葉癌の病態解明と診断・治療に新たな示唆をもたらすことを目指しています。

本研究テーマは私の学生時代の経験や関心と病理診断における問題意識とが結び付き発展したものであります。医学部学生時代や病理診断科ならび炎症病理学におきましてご指導くださいました先生方に厚く御礼申し上げます。今後も研究成果を積極的に発信し、社会に還元できるよう努めてまいります。改めて、このような貴重な機会を与えてくださいました讃樹會の皆様方に心より感謝申し上げます。



研究奨励金受賞のことば



香川大学医学部附属病院 小児科
森本 絢 (平成23年卒・26期生)

この度は、令和7年度讃樹會研究奨励金のご支援を賜り、誠にありがとうございます。私は香川大学卒業後、周産期医療に携わりながら大学院で新生児を対象とした臨床研究の機会をいただきまいりました。極めて脆弱な新生児を対象とする研究では、測定負荷を最小限にしつつ、赤ちゃんがよく眠っている時間帯や、産前産後のお母さんから同意をいただく最適なタイミングなど、細やかな配慮が求められます。その一つひとつを支えてくださったのは、日下隆教授をはじめとする小児科医局の先生方、看護師の皆様、秘書の皆様であり、産休・育児休暇を経ながらも研究を継続できたことに、改めて深く感謝いたします。香川大学病院は臨床研究に取り組む環境に恵まれていると、日々実感しております。本奨励金のご支援は、私の研究活動を将来にわたり継続し発展させるための大きな励みとなるものであり、讃樹會会員の先生方、ならびに選考委員会の先生方に重ねて感謝申し上げます。

私はこれまで7～8年間、新生児の脳循環をNIRS (near infrared spectroscopy) を用いて評価してきました。NIRSは前額部にプローブを装着するだけで非侵襲的に脳血液量や酸素化を測定でき、新生児研究に極めて有用です。本研究では「早産児脳を護るための層別化カフェイン療法」をテーマとし、カフェイン投与による脳血液量・脳酸素化の変化と自律神経反応を

同時に解析します。カフェインは無呼吸治療薬として広く使用される一方、交感神経刺激に伴う血管収縮作用が過度となれば、極低出生体重児では脳血流低下や酸素化低下を招き、脳障害リスクとなり得ます。そこで、在胎週数や生後日齢、臨床背景を踏まえ、心拍変動解析とNIRSを組み合わせたモニタリングによりリスク層別化を図り、安全かつ個別化されたカフェイン療法の確立を目指します。これは長期的な神経学的予後改善に資する可能性を有する重要な研究です。

少子化が進む日本においても低出生体重児は増加しており、新生児医療の必要性はむしろ高まっています。近年、超早産児の予後は大きく改善したものの、コミュニケーション障害や神経発達症など社会適応の課題を抱える児も一定数存在します。MRIや脳波など現行の評価法では早期予測が難しく、新規の生理学的評価法の開発が求められています。私は今後もNIRS研究を一歩ずつ前進させ、医療の発展に貢献できるよう尽力してまいります。最後に、このような貴重な機会を与えてくださったことに深く感謝申し上げますとともに、いただいたご支援を最大限に活用し、研究・臨床の両面から社会に還元できるよう精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會

2026年度研究助成金／奨励金応募要領

1. 研究助成の目的

学内外で活躍している同窓生の行っている研究活動をサポートし、それらの社会への還元を促進すること。

2. 助成対象者

研究助成金：香川大学医学部(旧香川医科大学)医学科同窓会の会員で卒後25年以内の者で申請時より遡って5年間(準会員期間を含む)の会費を納入している者。

研究奨励金：香川大学医学部(旧香川医科大学)医学科同窓会の会員で卒後15年以内の者で申請時より遡って5年間(準会員期間を含む)の会費を納入している者。

尚、両者を同時に応募することはできない。

研究助成金は、1回受賞した後はインターバルを3年置いて再度申請が出来る。

研究奨励金は、1回の受賞をもってその後の申請は出来ないこととする。

3. 助成期間 1年間

4. 助成金額

研究助成金：1,000千円以内を1名。

研究奨励金：500千円以内を1名。

5. 選考方法 外部評価者による厳正な審査を経て、讃樹會理事会で決定する。

6. 研究成果の報告義務

(1) 研究助成を受けた方は、助成研究の結果(助成研究報告書)と研究助成金の使途明細(助成研究会計報告)を、助成2年後の2028年9月1日までに提出する。

(2) 助成研究の成果を助成研究発表会で発表する(日時・形式については別途連絡)。

(3) 助成研究の成果は、原則として学術誌に投稿すると共に、別刷一部を提出する。

(4) 過去において助成された事績がある応募者は、その助成課題に対して学術誌に投稿(受理を含む)しておれば、別刷一部を添付。ただし、既に提出済みの別刷はその必要はない。論文に讃樹會への謝辞が記載されていないものについては、受け付けない。

(5) 以上の報告義務を怠った場合には、助成金の返却を求める場合がある。

尚、やむを得ず申請者が手続きを完了できない場合には、共同研究者によってすべての報告が代行されるものとする。またこのような事が生じた場合は、総合的な責任は推薦者に発生するものとする。

7. 申請手続き

(1) 申請書 讃樹會所定の申請書「第1号～第8号様式」を書面で「書留便」などの確実な方法で提出のこと。提出部数は原本各1部、複写各4部。

(2) 受付期間 2026年2月1日～2026年4月30日(締切日必着)。

(3) 提出先 〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會 担当 柚山

TEL・FAX：087-840-2291 E-mail：sanjukai-dousou-m@kagawa-u.ac.jp

URL：https://dousoukai.site/sanjukai/

8. 選考結果の通知・公表

結果は文書で本人に通知する(2026年8月の予定)とともに、会報に受賞者による謝辞を掲載する。尚、提出書類は返却しない。

9. 守秘に関する留意点

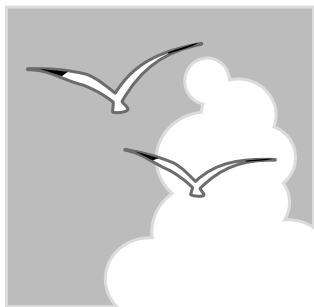
特許、守秘義務を交わした協同研究である等の理由で守秘が必要な場合は、上項6. 研究成果の報告義務及び8. 選考結果の通知・公表について勘案し、申請者の自己責任において応募すること。



■ 特 集 注目！学生サークル



- ・ 女木島救護所
- ・ IFMSAK
- ・ U-dawn
- ・ ちいらぼ



2025年度 女木島救護所プロジェクト 活動報告

女木島救護班 医学科3年 萩田 洋平

瀬戸内の穏やかな波音と、強い日差しが照りつける白い砂浜。高松港からフェリーでわずか20分、桃太郎伝説の残る「女木島」が、私たち医学生のと夏の挑戦の舞台でした。この夏、私たちは女木島海水浴場に「女木島救護所」を開設しました。「地域に貢献したい」「現場で実践的な医療を学びたい」—そんな想いを抱いた学生19名と、私たちの想いに共感してくださった、市内でクリニックを開業されている先生のご協力のもと、ゼロから立ち上げたプロジェクトです。

活動期間は7月中旬からお盆明けまでの週末を中心とした11日間。プレハブの救護所を拠点に、海水浴客の怪我や熱中症への対応、島民の方への健康相談を行いました。

期間中の対応は、岩場での擦り傷やクラゲ刺傷といった外傷処置が中心でしたが、中には緊急搬送を要する重篤なケースもありました。救急艇で屋島総合病院へと搬送した事例では、搬送の判断から実施に至るまでの緊迫した空気の中で、他職種や医療機関と迅速に連携することの難しさと重要性を肌で感じました。

一方で、救護所には穏やかな時間も流れていました。「去年はここが無かったから不安だったけど、今年は学生さんがいてくれて安心やわ」。小さなお子様連れのお母様や、不安そうに傷口を見せる観光客の方からいただいた言葉は、何よりの励みになりました。また、地元の女木島ライフセービングクラブの皆様とも密に連携し、互いの体調を気遣いながら安全を守り抜いた経験は、多職種連携の原点となる貴重な学びでした。

教室の講義だけでは決して得られない「手触りのある医療」が、そこにはありました。

問診から処置、経過観察、そして帰宅の判断。プライマリ・ケアの一連の流れを、指導にあたってくださる先生の監督下で自ら考え、実践する。教科書の知識が、目の前の患者さんを救うための技術へと変わる瞬間を、参加した学生一人ひとりが経験しました。また、島民の方々の血圧を測りながら何気ない会話を交わす中で、地域医療とは単に病気を診ることではなく、その土地の暮らしに寄り添うことなのだと実感しました。

初年度の活動を終え、私たちは確かな手応えとともに、課題も見つけました。医師不在時の運営体制や、インバウンド需要に伴う多言語対応、そして継続的な技能向上の仕組みづくりです。

これらの課題を乗り越え、より地域に根差した活動とするために、私たちは来年度より新たな学生団体と

して独立することを決意しました。組織としての基盤を固め、活動マニュアルの整備やトレーニングを充実させるとともに、地域の自治体や関係機関との連携をさらに深めていく所存です。

「学生だからできること」から一歩踏み出し、「医療のプロフェッショナルの卵として、地域に必要とされる存在」へ。

私たちの挑戦はまだ始まったばかりです。先輩方が築き上げてこられた地域医療の伝統を受け継ぎながら、瀬戸内の島々で新しい風を吹かせていきたいと考えています。今後とも、後輩たちの挑戦を温かく見守り、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後にお願いがございます。現在、本活動は1名の開業医の先生のご厚意に支えられており、継続的な運営にはより多くの先生方のお力添えが不可欠です。週末の活動日に現地へお越しいただける先生、あるいは運営や教育についてご助言をいただける先生など、少しでもお力添えをいただけるようでしたら、ぜひご連絡をお待ちしております。

【ご連絡先】

香川大学医学部 女木島救護班（担当：萩田）

E-mail: s22m031@kagawa-u.ac.jp



「地域に貢献したい」「現場で学びたい」という学生の熱意と、観光客の増加に伴う「島の医療資源不足」という課題。この2つが重なり合い、本プロジェクトが立ち上がりました。

女木島の現状と私たちの想い

【画像1】

「地域に貢献したい」と「現場で学びたい」2つの想いが活動の原点

女木島の医療課題	医学生の想い
夏季に多くの観光客が海水浴場を訪れる	未来の医療者として地域に貢献したい
一方で、島内の医療資源は限られている	学校の授業だけでは得られない実践的な経験を積みたい
急な怪我や体調不良への対応が困難	基本的なファーストエイドについて学びたい
	瀬戸内の特色である多くの有人島で学びたい

2025 女木島診療所

【画像2】

海水浴場特有の切り傷や擦り傷の処置、緊急性の高い熱中症対応に加え、島民の方々への健康相談も実施。軽症から搬送が必要な症例まで、幅広く経験しました。

具体的な救護内容

軽微な怪我から救急車で搬送が必要な熱中症まで経験しました。

外傷対応

砂浜や岩場での擦り傷や切り傷が最も多く、洗浄・消毒・保護といった基本的な応急処置を行いました。

熱中症・体調不良

熱中症が疑われる方には、涼しい場所での休息、水分補給、身体の冷却などを実施し、経過を観察しました。

健康相談

来島者だけでなく、島民の方々からの健康に関する相談にも対応し、血圧測定などを行いました。

2025 女木島診療所



【画像3】

メディア掲載：四国新聞に活動が紹介されました

私たちの取り組みが、地域社会への貢献として評価され、四国新聞様の記事として取り上げられました。



私たちの取り組みが評価され、四国新聞の記事として掲載されました。医学生によるボランティア活動が、海水浴客の安全を守る地域貢献として広く認知された瞬間です。

2025 女木島診療所

IFMSAK 国際医学生連盟香川支部

4年 梅谷 颯斗

International Federation of Medical Students' Associations KAGAWA

ホームカミングデーにおいて、IFMSAKの活動について紹介させていただいた。

IFMSAKはIFMSA-Japan（国際医学生連盟）を母団体とする、香川大学公認のサークルである。

IFMSAKにはぬいぐるみ病院部門とExchange部門があり、それぞれ週一程度で活動している。

ぬいぐるみ病院部門は、IFMSA-JapanのTeddy Bear Hospital Projectを香川大学独自に発展させている部門である。ぬいぐるみ病院とは、ぬいぐるみを患者に見立て、子どもたちに医者になり切ってもらい、病院でどのようなことをしているのかを子供たちに主体的に学んでもらい、病院への恐怖心を取り除くといった目的で行っている活動である。

また、子どもたちが学ぶのみならず、ぬいぐるみ病院を企画する医学生自身も、子どもたちへの接し方だったり、診療の流れだったりを確認、学習することができるという点で、非常に魅力的な活動である。

IFMSAKでは、年に数回程度、高松市こども未来館でぬいぐるみ病院を実施したり、三木町のまんて願で出店したり、いちご保育園で保健指導を行ったりと活発に活動している。

今年度も例年同様の活動を行っており、現在は2月15日の高松市こども未来館での活動にむけ、準備をしているところである。

Exchange部門は、IFMSAの制度を用いて、留学をしたり、留学生を受け入れたりという活動を主としながら、普段は英語の勉強や、日本文化についての学習などを行っている。

Exchange部門は香川大学の薬理学の研究室に留学生の受け入れのご協力をいただいております、年に1～3回程度ではあるが留学生を受け入れている。また、Exchange部門の医学生を留学生として送り出すことも行っており、エストニア、台湾、ポーランドといった様々な国に送り出している。

今年度は7月にフィンランドからの留学生を受け入れ、大阪万博やショッピングなど様々なところいき、楽しく交流することができた。また、現在は、来年度ハンガリーに留学予定の学生がいるので、その準備を

Exchange

- IFMSA-Japanに団体加盟しているので、IFMSAでの留学が可能
- 一年に3回ほど留学生の受け入れを行っている
- 3人ほど留学することが可能



Exchangeの制度についての説明

ぬいぐるみ病院

- イベントとしては、
- 高松こども未来館
 - まんて願
 - いちご保育園
 - 医学部祭

などなど



ぬいぐるみ病院の活動の様子やイベントの紹介

行っている。

IFMSAKには以上のように、ぬいぐるみ病院部門とExchange部門という2つの魅力的な部門があるが、この2つの部門同士で、交流することもある。ハロウィンやクリスマス、お花見といったイベントで、部員で集まり、IFMSAKとして交流を深めている。

これらの活動の様子は、IFMSAK全体のInstagramやぬいぐるみ病院部門のInstagramでも発信しているので、ぜひ興味がある方はフォローしていただき、あたたかく見守っていただくと幸いです。

ぬいぐるみとExchangeの交流



ぬいぐるみ病院とExchange部門の交流



IFMSAKのInstagramのQR

学生でも出来る海外支援～香川からカンボジアへ、U-dawnの挑戦～

2年 地藤 湧究

私たちは香川国際協力NGO U-dawn（ユードーン）と申します。日頃より香川大学医学部の先生方には活動への多大なるご協力を賜り、また同窓会の皆様からは学生支援（競争的資金）という形で温かいご支援をいただいておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私たちU-dawnは、「今日の笑顔を守り、明日の可能性を広げる」をビジョンに掲げ、2021年4月に設立された団体です。現在は医学部生だけでなく、他学部生の学生も交えた13名で活動しています。主な活動内容は、カンボジアへの医療支援と教育支援です。

設立当初からある医療支援プロジェクトでは、新生児蘇生法の普及活動に取り組んでいます。カンボジアの新生児死亡率は日本の約13倍で、赤ちゃんを救うための技術や器具が不足しています。2022年にクラウドファンディングで多数の方からご支援をいただき、蘇生法訓練用人形2体をカンボジアに送ることができました。以降は現地のNGOと協力し、カンボジア人医療従事者を対象とした講習会を開催しています。これまでにクメール・ソビエト友好病院や州立病院など、複数の医療機関で開催を重ねてきました。学生である私たちが直接的な医療行為はできませんが、学習の機会を整えることで間接的に、しかし確実に医療レベルの向上に貢献できていると考えています。

もう一つの大きな柱が、学校教育支援です。カンボジアの地方の小学校では学習環境が整っていません。机や椅子、黒板などを様々な観点で調査を行った上で、

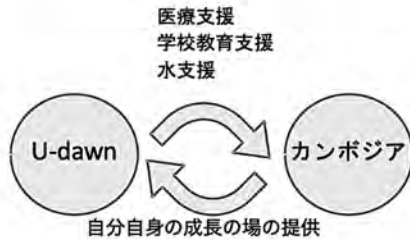
私たちが着目したのはトイレの不足、老朽化の問題です。例えば、児童数が数百人いるのに対し、トイレがわずか1、2基しかない学校があります。トイレ不足は不便さの問題にとどまらず、長い行列による学習時間の損失や不衛生な環境による感染症のリスクなど、学習機会の損失につながります。この問題を解決するために、2023年と2025年に小学校へのトイレ建設を行いました。クラウドファンディングでは100万円を超える資金を、香川県民の皆様や県内の企業様、大学関係者様よりいただき、完成させることができました。渡航の際にはトイレの使用状況調査に加えて衛生教育を行い、ハード・ソフトの両面からの学習環境改善に努めています。

活動開始当初は「専門家でもない私たち学生にできることは何があるのか」と葛藤もありました。現地の慣習の違いなどに悩むことも多々あります。しかし、学生だからできることもあります。利害関係なく純粹な想いで現地の人々と向き合うこと、柔軟な発想で新しい支援の形を模索できることです。私たちの活動はカンボジアへの一方的な支援ではなく、私たち自身が多くのことを学び、成長させていただく場でもあります。

私たちの活動は、同窓会の皆様をはじめとする多くの方々のご支援・ご協力無くしては成り立ちません。この場をお借りして感謝申し上げます。今後も、メンバー一同邁進して参りますので、引き続きよろしくごお願い申し上げます。

U-dawnとは？

- ・団体名：香川国際協力NGO U-dawn
- ・設立年月日：2021年4月11日
- ・会員数：13人
- ・支援先：発展途上国（主にカンボジア）



U-dawnメンバーの集合写真

団体概要と活動のサイクル

活動の様子



新入生勧誘イベント



毎週の定期ミーティング

国内での活動風景（ミーティング・新入生歓迎会）

U-dawnが実現したいこと

子ども達の未来の可能性を広げる



カンボジア渡航時に訪問した学校の生徒たちとの集合写真

私たちが目指す未来と現地の子どもたち

瀬戸内地域医療ラボラトリー (ちいらぼ)

4年 坂本 廉太郎

瀬戸内地域医療ラボラトリー（通称：ちいらぼ）は、「地域と医療系学生をつなぐ架け橋となる」ことをミッションに掲げ、医学部キャンパスの所在する香川県三木町を拠点として活動している学生団体である。2023年に設立され、現在は医学科16名、看護学科4名の計20名が所属している。異なる学科の学生が一つのチームとして活動することで、多角的なアイデア創出を可能としている点が特徴である。また、地域住民や地元企業、自治体関係者から助言やフィードバックを受けながら活動を展開することで、学内外を横断したネットワークの構築を実現している。

ちいらぼの活動は多岐にわたるが、そのすべてが学生の発案によるものであり、企画立案から実施、振り返り・評価に至るまでを学生自身が主体的に担っている。中でも、設立当初から継続している「ホスピタルアートプロジェクト」は象徴的な取り組みである。本プロジェクトは、香川大学医学部附属病院の小児病棟に長期入院している子どもたちが、地域の子どもたちとともにアート制作を行うことで、病院の外とのつながりを感じてもらうことを目的として始まった。現在3年目を迎えた本年度は、三木町の名物である「獅子舞」の油単を題材とし、子どもたちに自由な発想でデザインしてもらった。



「ホスピタルアートプロジェクト」ワークショップの様子



お借りしている空き家にて行われた、地域の方々をお呼びしての餅つき大会の様子



ホームカミングデーでの発表の様子

これらの活動に必要な費用は、各地で出店している「レモネードスタンド」によって賄っている。2025年には広報活動も兼ねて5回の出店を行い、活動の周知と資金調達を両立させている。さらに、地元の名士の方のご厚意により三木町内の空き家をお借りし、地域住民との交流拠点として活用している。自治会や青年会からの招待を受けて地域の祭りや集会に参加するほか、空き家を中心としたイベントも開催し、住民の理解と協力を得ながら継続的な関係づくりを行っている。

このように、医学部のある三木町において医療系学

生が「地域に入っていく」ことを、空き家プロジェクトという具体的な形で実現している点は、ちいらぼの活動の根幹である。学生が自ら「できること」を考え、主体的に行動する経験を積むことで、将来医療従事者となった際に求められる「地域全体を診る力」を養うことができると考えている。

一方で、活動頻度の制約や運営資金の確保といった課題も存在する。今後は役割分担の工夫による負担の平準化や、助成金の活用、多方面からの支援の獲得を通じて、活動の持続とさらなる発展を目指していきたい。



沢山のOBOGの方々にお聞きいただき大変ありがとうございました。ありがとうございます。

学会開催報告

《第37回腎と脂質研究会 開催報告書》

第37回腎と脂質研究会

代表世話人 西山 成（8期生）

令和7年3月29日、レクザムホールにおいて「第37回腎と脂質研究会」を開催いたしました。本研究会は、腎疾患と脂質代謝異常の関係に関する最新の知見を共有し、基礎と臨床の両面から議論を深めることを目的として、長年にわたり継続して開催されております。今回も、全国から200名程度の多くの先生方にご参加いただき、対面での活発な討論が繰り広げられ、盛会のうちに終了いたしました。

まず初めに、本研究会の円滑な運営と成功は、香川大学医学部同窓会「讃樹會」からのご支援の賜物であることを、心より御礼申し上げます。ご援助いただいた資金は、会場使用料、資料印刷費、講師謝金、機材設営費などに有効に活用させていただきました。おかげさまで、参加者が一堂に会し、直接顔を合わせて意見交換を行うという、学問交流の原点に立ち返った意義深い会とすることができました。「讃樹會」のご厚意により、研究と教育の両面で大きな成果を得ることができましたことを、ここに深く感謝申し上げます。

今回の研究会では、「腎疾患と脂質代謝異常のクロストーク—新たな病態理解と治療戦略—」をメインテーマとして、多彩な講演と一般演題が行われました。特別講演では、国内外でご活躍の先生方より、慢性腎

臓病（CKD）と脂質異常症の病態連関、脂質代謝の異常が腎臓機能に及ぼす影響、さらに新たな治療薬の開発動向などについて、最先端の研究成果をご紹介いただきました。臨床の現場に直結する知見も多く、参加者からは「明日からの診療にすぐに活かせる内容だった」との声も寄せられました。一般演題では、若手医師や大学院生による発表が数多く行われました。若手研究者が自らの成果を堂々と発表し、参加者からの質問に的確に応答する姿は、将来の香川大学医学部を支える人材育成の成果として大変頼もしいものでした。また、研究会の合間には、参加者同士の情報交換や共同研究の打診も多数行われました。対面での交流を通じ、学内外の研究者間の連携が一層強化されたことは、本研究会の大きな成果の一つです。今回の開催を通じて、腎疾患と脂質代謝研究の発展に向けた新たな研究ネットワークが芽生えたことを確信しております。

結びに、第37回腎と脂質研究会の成功は、「讃樹會」の皆様のご支援とご理解によるものであります。ご援助を賜りましたことに改めて感謝申し上げますとともに、今後とも同窓会の皆様とともに、香川大学医学部から全国・世界へ発信できる研究を推進してまいりたいと存じます。引き続き、変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。



支部会・懇親会



10期生卒後30周年同窓会

劉（福田）有子（平成7年卒・10期生）

「キャシャーンがやらねば誰がやる」、「リュウがやらねば、だれがやる」ということで、卒後30周年同窓会を、2025年8月16日、クレメント高松にて開催しました。北は北陸、関東、南は九州から36名もの仲間が集まってくれました。前回の同窓会で「次は25周年で会おう」と約束しましたが、2020年3月、準備を始めようとした矢先に、新型コロナウイルスの大流行、世界的パンデミック、ロックダウン。県をまたぐ移動もままならず、開催を断念せざるを得ませんでした。そして今回、やっと10年ぶりに再会を果たすことができました。会場に隣接する、去年新しくできた「あなぶきアリーナ香川」の、乃木坂46のコンサートに迷い込むこともなく（笑）、卒後30年という節目を10期生仲間たちでお祝いすることができ、胸がいっぱいになりました。

同期の清岡君が、2024年4月に国際医療福祉大学熱海病院循環器内科教授に就任したと聞き、サプライズでささやかな就任祝いを行いました。花束贈呈は、同じスモールグループだった旧姓・川田道子さんをお願いし、学生時代の彼の素敵な人柄やエピソードを披露してくださいました。近況報告会では、各人があの先の見えない闇をどのように乗り越えたのか、武勇伝や熱い想いを語り合い、大いに盛り上がりました。家族の介護を続けながら、地域医療を支える方々、エイジングと戦いながらの不屈のキャリアアップを続け、進化を止めない有志、母校の恩師である原名誉教授が開発した遠隔画像診断アプリを、JICAの協力のもと、日本の日常業務と並行して、実地指導で世界を回り、普及に尽力している同窓の士など（詳細は「小松市民病院katarto-saのブログ：ブータン紀行」参照）、昔とかわらないその情熱に、深く胸をうたれました。今後のことや熱い語らいが続くなか、「実は甥が有名なスポーツ選手です」という告知には皆がざわつき、今回の踊るヒット賞をかっさらっていきました。

あっという間に一次会が終わり、二次会はBBハウスへ。同窓会タイムマシーンに乗って10代、20代の頃



同窓会司会 左から大塚、劉



左から細木、清光、清岡、上田、小笠原、李、横井



左から小林、沖屋、福田、小野、直江



手前左から小野、遠藤、松本、玉井、田中、古川、山田

に戻った気持ちで、心ゆくまで讃岐の夜を満喫し、語り明かしました。まだまだ話し足りない有志で三次会はBar足袋に行きましたが、気持ちは若返っても、胃袋はそのまま。昔のように「締めうどん」とはいきませんが、それでも忘れられない夜になりました。

最後に、同窓会の準備にご尽力いただいた中村さん、古川さん、連絡をしてくださった遠藤さんや皆様、そして「讃樹會」の柚山様に、この場を借りて心より感謝を申し上げます。

～*～ あとがき ～*～

久しぶりの再会を前に、香川医科大学に入学したあの日のこと、そして卒業後の長い道りを振り返ってみました。私たちの今があるのは、ベビーブームの最中、医学部入学がいまよりも困難であった時代、母校が私たちを受け入れてくれたおかげだと。

入学当初真っ白で輝いていた講義棟や研究棟は、創立50年を経て老朽化が進んでいます。医学の進歩に対応するための新しい施設を導入したくても、なかなか予算に余裕がないことを、10年前母校へIターン再就職した時に痛感しました。そんな折、西山成医学部長（私の高校の先輩でもあります）が、香川大学医学部50周年記念の寄付活動をされている姿を間近で拝見した際、ふと、中国の四字熟語「有銭出銭、有力出力」、つまり、お金を持つ人はお金を、力を持つ人は力を出し、みんなで力を合わせよう、という言葉思い出しました。

すこしでも母校に恩返しをと決意し、讃樹會からパンフレットを送ってもらいました。そして今回の同窓会の場で寄付を呼びかけたところ、多くの同期から「りゅうちゃん、横井君（医療情報学教授）の呼びかけを聞いて寄付したよ」という温かいお言葉をいただきました。同期の優しい気持ちに触れ、準備の苦労は一瞬で吹き飛びました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

さて次は5年後の2030年、還暦を祝う会も開催いたします。今回残念ながら参加できなかった方、あるいは幹事の連絡が行き届かず、今この誌面で同窓会を知った方、是非さぬきの地で、全員集合！赤いちゃんこ、赤い仮面、カズレーザー風赤のスーツなど、思い思いの赤い衣装を身につけ、再会できるのを、今から楽しみにしています！

(写真は全て 旧姓表示敬称略です)



左から伊野部、井町、植木、合田、星川、宮武、関



芋坂、高尾



芋坂、中村



左から古本、水谷、川田、宮崎、阿部



二次会 左から加藤、遠藤、高尾、宮崎



二次会 左から川田、星川、沖屋、玉井、佐藤、細木



清岡崇彦先生、教授ご就任おめでとうございます！

令和7年8月16日、私たち香川医科大学10期生の卒業30周年同窓会「香川医大10期仲間会」が、清岡崇彦先生の国際医療福祉大学熱海病院循環器内科教授ご就任祝いを兼ねて、ホテルクレメント高松にて盛大に開催されました。今回同じSG（スモールグループ）だったご縁で、僭越ながら祝辞を担当させていただきました。

清岡君（ここからは親しんだ学生時代の呼び方にします）は令和6年4月に教授に就任されました。学生時代は剣道部とひばり（児童問題研究会）に属し、その真面目で熱い心は、まさにドラマの主人公のようでした。まっすぐな気持ちと、誰からも高評価な人柄は、学生時代と変わらず、今日まで仕事に真摯に向き合ってきたことと思います。

彼の優れていた資質を物語るエピソードは数多くありますが、中でも印象的だったのは、救急実習での出来事です。消防署での救急実習中、救急車に乗り搬送に同行していた際、搬送先の病院長が一瞬にして彼を見初め、「娘婿にどうか？」と後日食事に誘われたことです。まったくの初対面の医学実習生をそこまで引き付けるとは！？彼が学生時代からいかに優れた人物であったかを物語っています。また、大窪寺近くの多和診療所へ実習に行った帰り道、私たちの車が突然の爆音に襲われ、同乗していた私たちは大慌てで大騒ぎでしたが、運転していた清岡くんは一人動じることなく、冷静に車の故障部位を確認し、的確に対応し、無事帰途につくことができました。事故にならなかったのは彼の冷静な判断力のたまもので、今でも私が慌てそうな時に時々思い出す教訓です。彼は男前で、体格も良く、勤勉。文字通り「文武両道」で、今風に言うと、良い意味での「べらぼう」「唯一無二の男」だと思います。飲み会の席でも、高知県人だからかお酒をどんどん飲み干し（※KMSページによると実は高松生まれであり強くないそうですが...）、剣道が強く、人間力が高いので、ポリクリ（臨床実習）の際にも、多くの先輩から声を掛けられ、可愛がられていたのを思い出します。



G班 フレンチレストランにて

阿部 通子（平成7年卒・G班、旧姓川田）

同窓会では、清岡君が長年続けてこられたご研究、原因不明の持続性胸痛（微小血管狭心症、冠微小循環障害CMD）のホットな話題について、ご紹介いただきました。



今まで不定愁訴とされていた患者さんの中には、実はこの病気のことがあり、15年以上前から全国でいち早く診療に取り組み、診断・治療が可能であると、専門外の私たちにも分かりやすく、教えていただきました。また、当日出発直前まで診療をされていたとか、その真摯さはほんとうに変わっていませんね…。同窓生の活躍は誇らしく、私たちの励みになります。

清岡君、健康第一に、ますますのご活躍を期待しています！！

さて、学生時代の昔の写真を見返すと、入学後に行われた五色台研修での仮装写真がありました。1ヶ月半前まで見ず知らずの間柄だった私たちが、どうしてあんな格好になったのか全く思い出せません。覚えている方がおられましたら、ぜひ次回同窓会でお教えてください。

日々の業務でお忙しい中、今回このような素晴らしい会を企画して下さった、幹事のりゅうちゃん、役員の皆様にご心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(G班：清光弘之・川添 剛・阿部通子)

※KMSページ：香川医大の学年別電話帳。直筆・自由記載で自己紹介するもので、1/年更新して発行されていました。



大学1年生 五色台研修

第4回岡山讃樹會開催報告



杉原 雄策
(平成17年卒・20期生)

2025年11月9日（日曜日）に、香川医科大学（現・香川大学医学部医学科）の同窓会「第4回岡山讃樹會」がピュアリティまきび2階「橘」にて開催されましたのでご報告いたします。

本年の岡山讃樹會には、特別ゲストとして医学部長 西山成先生、讃樹會会長 星川広史先生、ゲストスピーカーであるりんくう総合医療センター産婦人科部長 荻田和秀先生、名誉教授の板野俊文先生、西岡幹夫先生がご参加くださり、岡山赤十字病院の研修医の先生方4名を含め、計28名が集う盛況の会となりました。

この会は、2017年4月に岡山に戻られた岡村一心堂病院の岡村暢大先生が、香川医科大学（現・香川大学医学部医学科）にゆかりのある医師たちが岡山県およびその近隣地域で交流できる場として「岡山讃樹會」を立ち上げられたことに始まります。第1回は2018年10月、第2回は2019年10月、コロナ禍を経て第3回を

第四回岡山讃樹會 出席者一覧（敬称略）

氏名	卒年度	氏名	卒年度
西岡幹夫	名誉教授	森實典子	平成10年
板野俊文	名誉教授	宮島美穂	平成10年
松井秀樹	元教員	坪内弘明	平成11年
蓮井光一	昭和62年	高吉理子	平成13年
竹馬彰	昭和63年	岡村暢大	平成14年
樋本尚志	平成2年	佐々木佳子	平成14年
星川広史	平成2年	中野貴之	平成14年
秋山正史	平成3年	杉原雄策	平成17年
田端りか	平成3年	藤原敦史	平成20年
荻田和秀	平成4年	山岡千夏	令和5年
河合俊典	平成4年	小池裕子	令和6年
谷守通	平成4年	福永貴大	令和6年
西山成	平成5年	荒川結衣	令和6年
菅田吉昭	平成9年	新屋祐大朗	令和6年



岡山讃樹會

令和7年11月9日

於 ピュアリティまきび

2024年11月に開催し、今回第4回を迎えました。今回も「来たれ、讃岐育ちの秀医たち！」をテーマに開催いたしました。

開会の挨拶は星川広史先生、乾杯のご発声は西岡幹夫先生にお願ひし、盛大な会の幕開けとなりました。

歓談を挟み、ゲストスピーカーの萩田和秀先生（平成4年卒）にご講演いただきました。先生が大阪大学時代に研鑽を積まれた基礎研究のご経験、そして最前線の現場で日々母子の命に向き合われておられるお話には深い感銘を受け、改めて周産期医療の尊さと重要性を感じさせられました。さらには人気ドラマ「コウノドリ」のモデルになられた経緯やご縁の話題やネアンデルタール人の寿命に関する科学的話題や国際診療科でのご活躍などの多岐にわたる興味深いご講演をいただきました。

続いて、西山成先生からは香川大学医学部の現状と今後の発展について、「奉仕の心」「社会貢献」「リーダーシップの育成」といった中核理念に触れながらご講演をいただき、参加者一同深い感銘を受けました。

その後、多くの先生方から近況報告や今後の展望、趣味や健康法など、多彩なお話をいただきました。

閉会の挨拶では、代表発起人の岡村暢大先生より、会の設立経緯、これからの医療の展望、学生時代の思い出、在校生への温かいエールを込めたスピーチをいただき、来年の開催を確認して会を締めくくりました。司会は前回に引き続き、私、杉原雄策が務めました。

今回の開催にあたり、多くの方々にご協力を賜りました。発起人としてご尽力くださった鍛本真一郎先生、蓮井光一先生、竹馬彰先生、宮本修先生、岡田浩先生、枝園忠彦先生、高吉理子先生、岡村暢大先生、河合大介先生、藤原敦史先生、讃樹會事務局の皆様、そして事務を担当いただいた岡村一心堂病院秘書の三宅京子様をはじめ関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

なお、来年も岡山駅周辺での開催を予定しております。岡山にご縁のある卒業生の先生方、岡山がご実家の方や高校のみ岡山に通われた方、岡山での勤務を希望される方など、ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。学生の参加は無料としておりますので、ご子息やお知り合いにもぜひお声がけください。

また、岡山讃樹會のメーリングリストも開設しておりますので、ご希望の方は岡村暢大先生（okamuu@mac.com）までお知らせください。

【第24回讃樹會関東支部会】

讃樹の絆、世代を越えて銀座に集う

ファミリー産院たてやま／ファミリー産院よこはま菊名
原田 賢（平成28年卒・31期生）

前回の同窓会が行われた後、一緒に運営委員をやらなかと誘われ、yesの返事をしてから会の開催まであっという間の1年でありました。誘ってくださった先輩（入学時のSGからの付き合いなので15年以上です）と0次会と称し、アラフォー男2人でとらやにてお茶とお汁粉をすすりながら期待を膨らませ、いざ会場に!!

香川大学医学部医学科同窓会「讃樹會」関東支部による第24回関東支部会・懇親会が、2025年11月15日（土）18時30分より、東京都中央区のboB the garden Ginzaにて開催されました。スワロフスキーが散りばめられたラグジュアリーな空間に、関東近郊を中心に幅広い年代の同窓生59名が参加し、世代や専門分野を超えた活発な交流の場となりました。

会は、関東支部会を主催された日本医科大学 内分泌代謝・腎臓内科学分野の岩部真人先生（平成15年卒）の開会挨拶により始まりました。挨拶では、讃樹會関東支部がこれまで築いてきた同窓生同士のつながりの意義や、忙しい日常の中でも母校を同じくする仲間が集うことの大切さについて語られ、会場は温かな雰囲気になりました。

本会には、学生時代にも大変お世話になった香川大

学医学部長の西山成先生（平成5年卒）にもご臨席いただきました。西山先生からは、母校の近況や医学部を取り巻く現状についてのお話があり、参加者一同、改めて母校への理解と愛着を深める機会となりました。遠く関東の地においても、母校とのつながりを実感できる貴重な時間でありました。香川大学医学部へのふるさと納税を、という新しい試みも案内されこれをきっかけにさらなる母校愛が深まることを期待させました。

懇親会では、学生時代の思い出話に花が咲く一方、現在の医療現場における課題や専門分野ごとの近況、若手医師のキャリア形成などについて、世代を超えた活発な意見交換が行われました。初参加の同窓生も多くみられましたが、すぐに打ち解け、讃樹會ならではの一体感が自然と生まれていたことが印象的でありました。カメラマンの任を仰せつかったのに自身が楽しむことに集中して写真が例年に比べて少なくなってしまうことは反省です（それくらい楽しく過ごすことができたとポジティブに捉えておきます）。参加した研修医からはその場で入局宣言が行われたとか行われなかったとか!？また、事前にお子様同伴での参加が可能である旨を案内しており、お子様連れでの参加をされている先生もいらっしゃいました。

本支部会・懇親会を通じて、同窓生相互の結束がより一層強まり、関東支部としての活動の意義を再確認する機会となりました。今後も讃樹會関東支部では、このような交流の場を大切にしながら、同窓生ネットワークのさらなる発展と、母校および社会への貢献につなげていくことが期待されます。

既に次回の開催も2026年11月14日に決定しております（ただし場所を選定中です）。1年後のことなんてわからない？そんなことをおっしゃられないで、とりあえずスケジュールに登録しておいてくださいね。

自身は医師免許取得10年目の今秋から職場を横浜の周産期センターからうつし、ファミリー産院たてやまの院長職を拝命し、日々地域医療に従事しております。同窓会ではクリニックの院長をしていらっしゃる先生方に日々の悩み相談にのっていただきました。今も締め切りのせまった慣れない事務作業と格闘しながら年の瀬を過ごしております。千葉県館山にお越しの際は、ぜひご一報くださいましたら幸いです。

末筆ながら、本会の開催にあたり多大なるサポートをいただきました讃樹會事務局の皆様へ、深く感謝申し上げます。



【参加者一覧】

(S61) 北窓 隆子 (S62) 内田 光一 (S63) 山田 賢治 (H3) 赤沼 真夫、内山 順造、杉原 聡、丸山 雄一郎 (H4) 入江 琢也、加藤 貴、後藤 孝也、原 義明、諸井 隆一 (H5) 西山 成 (H6) 池畑 恭子、伊藤 美奈子 (H7) 中田 健夫、宮崎 達也 (H8) 大河内 眞之 (H9) 堀池 篤 (H11) 谷川 智行 (H13) 市川 麻以子、山中 隆夫 (H14) 伊原 玄英、内野 慶太 (H15) 井上 英樹、岩部 真人、京 里佳、多田 訓子 (H16) 谷本 英則 (H17) 河村 真美、津留 世里 (H18) 沼尾 真美、鈴木 尚亨、高橋 耕治、中尾 圭介 (H19) 貴志 美紀、石川 真紀子 (H21) 合田 智絵、山本 浩之 (H22) 稲垣 小百合 (H23) 春日 武史、高妻 岳広、阪口 正洋 (H25) 柴田 綾夏 (H26) 村田 智洋 (H27) 加藤 幹也、藤網 舞、藤網 隆太郎、蛭間 真梨乃 (H28) 高口 佳那、成瀬 京子、白石 沙由香、原田 賢、見原 雄貴 (H29) 坂本 愛子 (R7) 栗田 裕也、黒田 知暉、越川 幸弥、松本 侑己 59名

第25回 讚樹會 関東支部会 開催日時決定！

2026年11月14日（土）
18時より

都内で開催します！

詳細は後日ご案内します
皆様、まずは是非ご予約ください！

河北 賢哉先生 教授就任祝賀会・同窓会（1988年入学／1994年卒業）開催報告

2025年9月20日（土）JRホテルクレメント高松

志水 英明（平成6年卒・9期生）

2025年9月20日、香川大学医学部1994年卒業同期の同窓会が高松市「JRホテルクレメント高松」にて開催されました。今回は、河北賢哉先生の救急災害医学講座 教授ご就任を祝う会も兼ねた記念すべき集まりとなり、全国各地から多くの同期生34名が集まりました。

ご来賓挨拶



香川大学医学部長 西山 成先生より

同窓会当日は、香川大学医学部長の西山 成先生をお招きし、香川大学医学部の現状と未来について熱意あふれるご講演をいただきました。講演では、香川大学が置かれている厳しい経営環境や、急速な社会変化を背景に、医療人育成の使命をいかに果たしていくかについて語られました。

- 災害医療拠点としての役割：南海トラフ巨大地震などの大規模災害時に、大学の立地を活かして災害医療拠点となるための計画を推進。特に河北先生には、救急災害医学講座 教授として中心的なリーダーシップが期待される。
- 地域医療を支える人材育成：2040年に予測される地域の医師不足に対応するため、一人でも多くの卒業生が香川県に残り、地域医療に貢献するよう、研修医や専攻医の教育プログラムを強化し、母校愛を育む取り組みに注力している。
- キャンパス再開発と教育環境の刷新：開学50周年に向け、6か年計画でキャンパス全体の改修工事を実施中。
- 「母校を愛し、香川に戻ってきてくれる卒業生を増やしたい」という力強いメッセージが印象的でした

教授就任のお祝いとご挨拶

河北先生からは、教授就任のご報告とともに、1988年の入学時の思い出、白衣を初めて着た時の感動、学生時代の語らいなど、懐かしい記憶が語られました。そして「慣れない仕事で大変だが、なんとか頑張っています」と学生時代と変わらない率直な言葉で近況を共有され、温かい拍手が送られました。当日参加者及び当日参加できなかった同窓生から、モンブランの万年筆が記念品として贈呈されました。



香川大学医学部災害医学（附属病院救命救急センター）
河北 賢哉

令和7年4月より救急災害医学講座教授および救命救急センター長を拝命いたしました河北賢哉と申します。はじめに、私のために教授就任祝賀会（88入学/94卒）を開催していただき誠にありがとうございました。また、この会をご準備いただいた志水英明先生、浅賀健彦先生、藤田尚久先生、また、お忙しい中高松まで足をお運びいただいた同級生の先生方には心より感謝申し上げます。

とある2025年1月（候補者選考後）に、志水英明先生から祝福のLINEがあり、3月8日に就任前にも関わらずお祝い会を開催していただきました。その節は志水先生、藤田先生、香川先生、永井先生、西条先生、串田先

生、ありがとうございました。私の中では、目の前にある多くの山積した課題や問題をどう乗り越えていくかを思い悩んでいる状況でしたが、同期の仲間と昔話をしていくうちに一時的にでもそれらを忘れることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。そしてこの場で、今回の祝賀会を企画していただきました。

祝賀会当日の席次表を眺めると、卒業後全くお会いできていない先生方のお名前もあり、私の中では緊張感もありましたが、すぐに学生時代の面影が蘇り、その頃に戻ることができました。同期というものは、それぞれの立場がどんなに変わっても、すぐに学生時代に戻れるものだなと、あらためて嬉しく思いました。西山成医学部長をはじめ、多くの先生方に温かいお言葉をいただき、皆さんの近況も聞くことができました。みんなそれぞれの分野で重要な立場となられ、活躍していることを知ることができ、うれしく思うとともに、自分自身のおかれた立場を改めて認識し、身の引き締まる思いがしました。

昨今の医療関係のニュースにもあるように地方の救急医療は経営的、マンパワー的に逼迫している状況であります。ご多分に漏れず、香川県も同様です。私の最大のミッションは、救急医を増やすこととあります。救急医を増やすことができれば、今抱えている問題の多くは解決できます。まだ救急災害医学教室としては小さく、少数精鋭での診療、教育、研究が始まったばかりです。救急医を志す医学生は思いのほか多く、香川県で救急医療を実践する魅力を存分に伝え、教室を大きく発展させていきたいと思っております。同期のみなさんの活躍している姿に私も元気ももらったので、残された10年頑張ってみようと思います。今の我々の年齢になると体と心の両方が健康でなければ頑張れませんので、みなさまにおかれましてもくれぐれもご自愛くださいませ。

懐かしき仲間たちのお祝いの言葉と近況報告 ～語られた31年分の歩み～

この同窓会では、参加者全員がマイクを持ち、お祝いの言葉とそれぞれの“その後”を語る時間が設けられました。

お祝いの言葉では

- 「長年の研鑽が報われた」「努力が実を結んだ」と、これまでの歩みを称える声。「同期として誇らしい」「母校に教授が誕生して嬉しい」など、同期の一員としての喜びと誇りが随所に見られました。
- 「あの頃のままでいてください」「実家で食べたうどんの味を思い出します」など、学生時代の思い出を交えた温かいメッセージ。
- 「教育、人材育成に取り組む姿勢を応援しています」「香川大学医学部と地域医療の発展のため、引き続きお願いします」医療・教育への期待と信頼。
- 「学会が重なり参加できませんが、お祝い申し上げます」「近くにいなが行けず残念です」「プレゼントとともにエールを送ります」参加できない方からの心のこもった言葉がありました。

近況報告では多いに盛り上がり、医療現場での奮闘や転機、家庭での変化、趣味や副業など、内容は多岐にわたり、まさに人生の縮図ともいえる充実した時間となりました。

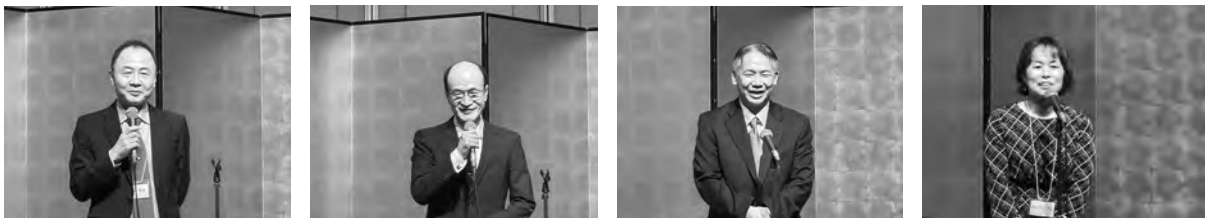
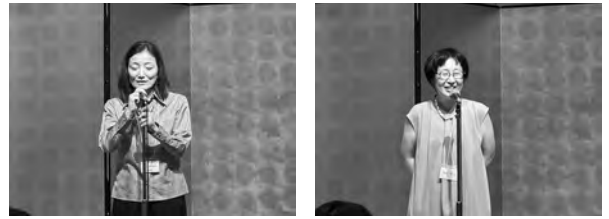
- 医学教育や大学勤務、研究に従事する仲間たちの話からは、医療の現場で積み重ねてきた実績と誇りが感じられました。
- 一方、開業医として地域医療に向き合う日々、コロナ禍のワンオペ診療、事業経営の苦労など、実直な声に共感が広がりました。
- 精神科へのキャリアチェンジや育児との両立、また医療以外の道に進んだ話なども多く、人生の多様性を象徴するようなエピソードが続きました。
- 「ジャズシンガーとしてコンサート活動をしている」「セラピードッグとともに診療しテレビにも出演」「卓球や音楽フェスでリフレッシュ」など、医師という枠を越えた活躍も光っていました。
- 「銀婚式を迎えた」「子どもが成人し、第二の人生をスタートした」といった家庭の節目の報告にも、会場からは温かい拍手が送られました。

一人ひとりの語りからは、それぞれが歩んできた30余年の重み、そして同期というかけがえのない絆の深さが滲み出ていました。

仲間の声に励まされて

それぞれが抱える立場や課題は違えども、懸命に今を生きる仲間たちの姿に、心を打たれました。

「自分もうひと踏ん張り頑張ろう」「また誰かの力になりたい」——そんな前向きな気持ちを自然と呼び起こしてくれる、かけがえのない時間だったと言えるでしょう。この会を通じて、私たちはまた一つ、大切な“原点”を思い出したのかもしれない。



発起人より



実に10年ぶりの同窓会ということであったが、前回はお呼びがかからず。留年組はむつかしい。ともあれ卒業以来顔を合わす面々と旧交を深めることができ、かくも盛大な祝賀会を開催できて感謝。(9期生藤田尚久)



かつて「30年は自学出身の教授は出ないだろう」と言われていたことを、ふと思い出しました。同期から教授が誕生したことを、しみじみと嬉しく感じています。久しぶりに再会した先生方も、それぞれの場で活躍されており、逞しさと懐かしさが入り混じる、印象深い時間でした。(9期生浅賀健彦)



同窓会を兼ねて河北教授就任のお祝いをしたいとのことで9ヶ月前から準備を開始しました。当初予定していた会場の急な閉店や、大物歌手のコンサートと日程が重なり宿泊が取りにくいなどがありました。数多くの同級生がお祝いに賛同し盛大に開催できたことを感謝します。開催にあたりご協力いただいた同窓会及び事務局の柚山さんに感謝いたします。(9期生志水英明)





開催にあたりご支援を頂き感謝いたします。

・開催に寄付いただいた先生（敬称略）

池畑恭子、大野晶子、西條雅康、齊藤律子、武田早苗、前田亜美

浅賀健彦、石村健、何森亜由美、香川好男、葛城邦浩、菅田吉昭、小林英治、富松拓治

・今回参加できず寄付及びプレゼントを頂いた先生（敬称略）

奥谷雄一、後藤理恵子、小西晶子、島村隆浩、福原政作

・今回参加できずプレゼントを頂いた先生（敬称略）

植木昭彦、川口雅功、河原林正敏、阪本紀子、柴崎三郎、柴崎嘉子、三谷琴絵、山本議仁

【当日参加者】

浅賀健彦、池田宇次、池畑恭子、石村健、何森亜由美、伊藤美奈子、大野晶子、大山英郎、香川好男、加地良雄、葛城邦浩、河田真由美、菅田吉昭、串田吉生、小林英治、西條雅康、齊藤信幸、齊藤律子、志水英明、武田早苗、角岡潔、堂本和孝、富松拓治、永井利幸、藤田尚久、古本渉、前田亜美、水谷真、宮崎義雄、横塚由美、吉田篤史、吉田綾、河北賢哉、河北規鈴、西山成

第46回香川大学医学部祭 開催報告



医楽部万博祭

～彩あふれる世界へ、おいでま医！～

第46回香川大学医学部祭実行委員長 医学科3年 松本 壮人

2025年10月10日から12日の3日間、香川大学医学部で医学部生による第46回香川大学医学部祭が開催されました。今年度は新型コロナウイルスから本来の形での開催であった第44回から3回目となる医学部祭でした。

今年度の医学祭のテーマは「医楽部万博祭～彩あふれる世界へ、おいでま医！～」でした。「万博」とは「万国博覧会」の略であり、世界各国が最新の技術や文化を紹介し、国際的な交流を促進する場です。今年度の医学部祭では、大阪で行われた万博にちなみ、医学部祭を通じて多くの方々に医学部の取り組みを知っていただき、医学部と世界をつなぐきっかけになればという思いを込めました。また、来ていただく皆様に「医学」を難しく近寄りがたいものではなく、面白く楽しいものであると感じていただけるよう「医楽」という言葉にしました。

またサブテーマには、医学部生一人ひとりの“彩”あふれる個性を存分に発揮し、来ていただく皆様に、私達がこの日のために準備してきた企画や演目をぜひ体験して欲しいという思いを込めました。

今年度は「今までの医学部祭とはひと味違う」という想いのもと、様々な新しい取り組みを行いました。医学展では例年よりも規模を拡大し、より多くの人達が医学に触れる機会を提供できるようにし、さらに当日参加が可能な体験型企画も新たに導入しました。外部講師を招いて行われる講演会では、国際的に活躍する「国境なき医師団」の方をお招きし、現場での貴重なお話を伺うことができました。

そして何よりも今年が目玉は、人気アーティスト「wacci」さんをお招きして開催したアーティストライブでした。ここ数年はお笑い芸人さんをお呼びしたお笑いライブで、もちろん大好評でしたが、より幅広い層の方々に楽しんでもらいたいと思い、今年度はアーティストライブの開催に挑戦しました。

もちろんステージ企画も昨年以上に充実したものになりました。今年から新たに「プレイヤーコンテスト（プレコ



局員打ち上げ！！みんなで頑張りを称え合いました！

「それでは医学部祭、開催です！！」



ン）」や「マネージャーコンテスト（マネコン）」、お笑いコンテスト「Med-1 グランプリ2025」など新しい企画も実施しました。さらに軽音楽部・アカペラサークル「S-po」・ダンス部・オーケストラ部によるライブも、この日のために練習してきた成果を発揮し会場を大いに盛り上げました。



緊張感がありながらも楽しい??会議の様子



クロージングセレモニー
みんなで「キセキ」を歌って最高の思い出ができました!



ステージ企画の様子



ステージの準備も学生たちが率先で行います!



Waciiさん、来ていただき本当にありがとうございました。!

また医学部祭に足を運ばない方々にも医学部のことを知ってほしいという気持ちから始まった「医学部Radio」も三年目を迎えました。今年度は新たにラジオ局として活動の幅を広げ、医学科だけでなく看護科の学生も積極的に参加しました。病院にいる方々の声や先生方の学祭で



学祭を創り上げた実行委員長、副実行委員長、企画局長。完璧の布陣です!



FM高松にお邪魔し宣伝させてもらいました!

の思い出、学生の悩みなど様々な思いを届けることができ、多くの方々から温かい反響をいただきました。ラジオという形で社会と繋がることができたのは私たちにとって大変貴重な経験となりました。

医学部祭が本格的に始動した4月から約半年間、楽しいことも大変なこともたくさんありました。新しい挑戦には数多くの困難が伴いましたが、その度に仲間と協力し乗り越えてきました。

中でも実現は厳しいと言われ続けた「アーティストライブ」も最終的には大成功を収めることができ、来年度以降の良い参考になったと思います。

ライブでwacciさんの「恋だろ」が流れ、会場全体が一つになった瞬間、涙が溢れて止まらなかったあの場面は、私の一生忘れることができない思い出です。ゼロから何かを創り上げる難しさ、そして仲間たちと成し遂げた時の達成感、これからの私たちの人生の大きな糧となると思います。



模擬店もアイスや焼きそばなど大繁盛!



医学生体験

最後になりましたが、第46回香川大学医学部祭を開催するにあたり、このように無事開催できたのも讚樹會、医師会、学生会、後援会、学友会、本学の皆様、香川大学の教職員の皆様をはじめ、多くの方々のご支援・ご協力のおかげです。感謝の気持ちを感じるとともに、改めて厚く御礼申し上げます。来年度の第47回香川大学医学部祭も最高のものになると信じています。今後とも温かい目で見守っていただき、ぜひ足をお運びくださいますようお願い申し上げます。



医療手技体験



局員全体写真
最高の仲間たちと最高の学祭を作ることができました!!

医学部祭ロゴ



事務局からのお知らせ～

讃樹會HPのトップページに、支部会・懇親会のコンテンツができました。
 企画・開催する側と、参加する側、双方の情報交換の場として便利です。
 今後予定される支部会・懇親会の開催案内を確認できますし、同窓会や懇親会、イベント等の予定がありましたら、郵送やメールに加えてこのページを利用いただき周知下さい。

事務局に開催内容を連絡いただければすぐに掲載します。

是非、讃樹會HPの「支部会・懇親会」を確認してみてください。随時更新予定です。



クリックして、今後の開催予定をチェック！



現住所、勤務先、役職、メールアドレスの変更、改姓などがありましたら必ずご連絡下さい。ご連絡は、讚樹會HP、メール、FAX、郵送いずれでも結構です。




香川大学医学部医学科同窓会讚樹會行き

(TEL・FAX 087-840-2291)

スマホはこちら

会員情報変更届

記入日 年 月 日

卒業年	S・H・R・院 年	希望送付先	勤務先・現住所・実家
該当するものに○をお付けください	開業医 / 産業医 / 勤務医 / 研修医 / 在校生 その他 ()		
ふりがな			
氏名 (旧姓・旧名)	()		
現住所	〒		
	公開 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/>	TEL	FAX
	E-mail		
勤務先	名称	部署	
		役職	
	〒		
公開 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/>	TEL	FAX	
E-mail			
恒久的住所 (実家)	(氏名・続柄) 〒		
公開 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/>	TEL	FAX	
連絡事項及びメッセージ 			

※公開の可・不可にチェック を入れて下さい。

(事務局記入) 処理日 年 月 日

切り取り線

編 集 後 記

令和8年の新春を迎え、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年は暖冬傾向で、例年より過ごしやすい冬となっているようです。先生方も日々の診療や研究活動に精力的に取り組まれていることと存じます。

さて、本号では第19回定期総会の開催と会長選挙及び理事選挙の実施という、讃樹會にとって重要な節目を迎えることのお知らせしております。同窓生の皆様には、ぜひ総会にご参加いただき、讃樹會の今後の方向性についてご意見をいただければ幸いです。

同窓生教授就任挨拶を、清岡崇彦先生、堀池 篤先生、谷本耕司郎先生よりいただきました。同窓生の先生方の益々のご活躍を嬉しく思います。また、西山成医学部長の再任、杉元幹史附属病院長の就任と、大学の要職に同窓生が就かれることは、私たち讃樹會にとって大きな誇りです。そして本学新任教授として春里暁人先生がご就任されました。

ニュースの窓では、医学部ホームカミングデイや臨床研修マッチング結果、市民公開講座の開催など、多彩な活動が報告されています。特に香川大学医学部小児科同門会10周年の記念総会は、長年の歴史と伝統を感じさせる素晴らしいイベントでした。

国外留学助成金を阿部陽平先生、中寫晃一朗先生が、研究助成金を宮井由美先生、研究奨励金を森本絢先生がそれぞれ受賞されました。若手研究者の育成支援は讃樹會の重要な使命であり、今後も継続してまいります。

特集では「注目！学生サークル」として、女木島救護所活動、ちいらば、IFMSAK、U-dawnの活動をご紹介します。学生たちの社会貢献活動や国際交流活動は、医学生としての視野を広げる貴重な経験となっていることがよくわかります。また、医学部祭の開催報告や各支部会・懇親会の報告からは、全国各地で活躍される同窓生の絆の深さが伝わってまいります。

毎号のことながら、ご多忙中にも関わらず寄稿してくださいました皆様、讃樹會会員、事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。更に親しまれるような誌面になるよう、微力ながら努力してまいります。些細な事でも結構ですので、ご意見ご提案がございましたら宜しくご願ひ申し上げます。

広報局長 谷 丈二（平成14年卒・17期生）

事務局からの
お知らせ

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1 TEL 087-840-2291
E-mail sanjukai-dousou-m@kagawa-u.ac.jp HP <https://dousoukai.site/sanjukai/>
会員専用ページパスワード kmu1750

◇医師賠償責任保険を年間通して受け付けています。

（途中加入ができます）詳細は事務局にお問合せ下さい。

◇助成金公募のお知らせ：公募助成金申請の詳細は、讃樹會HPの「要項・ダウンロード」を参照下さい。

◆研究助成金/研究奨励金公募 2026年4月30日締切

◆国外留学助成金公募

2026年度第1回 2026年3月末日締切

2026年度第2回 2026年9月末日締切

◆学会助成金公募 開催前年6月末日までに申請下さい。

◆準会員（医学科在校生）対象の助成金公募

「学生の国際交流助成」公募（留学から帰国後1ヶ月以内に申請）

「競争的資金」（自主的な活動への支援）公募（申請締切はHPを確認して下さい。）

◇変更連絡：現住所、勤務先、役職、メールアドレスの変更、改姓などがありましたら必ずご連絡下さい。

ご連絡方法は、讃樹會HPから入力、メール、変更届用紙をFAX、郵送いずれでも結構です。

訃 報

研究助成金/研究奨励金外部評価委員
梶谷文彦先生

（2025年11月）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。